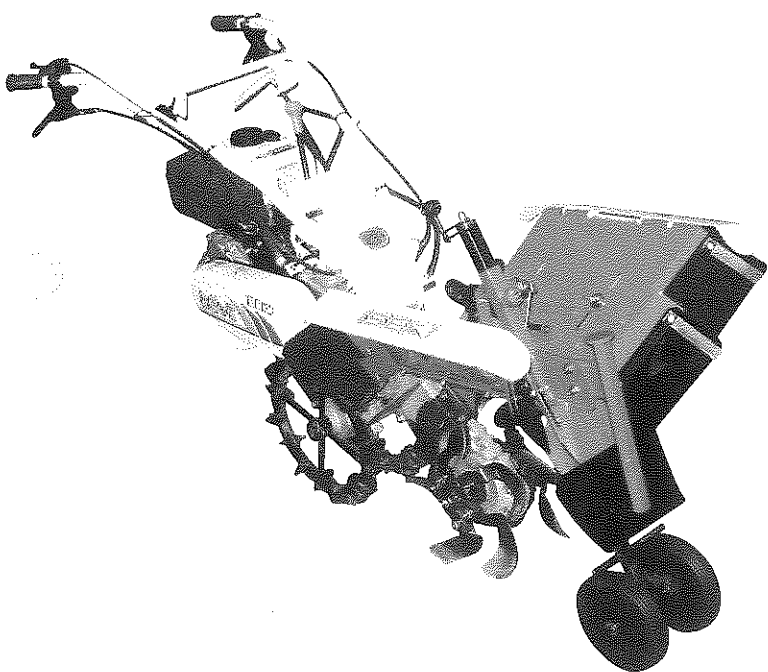


土揚げ専用管理機

ねぎっこ

取扱説明書

KNR 6



ご注意

- ◆この取扱説明書をよくお読みになり、記載内容を十分理解してください。
- ◆記載内容を十分理解してから、管理機の取扱いを開始してください。
- ◆この取扱説明書を読み終えた後も、必要な時にすぐ参照できるように管理機の近くに保管してください。




井関農機株式会社

管理機重要ポイント

1. 管理機や作業機を点検・調整するときは、
必ずエンジンを止めてから行います。
2. 後進をするときは、
スピードを下げ、背後の障害物に注意します。
3. ほ場への出入りや、車への積み・降ろし、移動のときは、
必ずロータリの回転を止めます。
4. ほ場への出入りや、車への積み・降ろしは、
上りは前進、下りは後進で行います。
5. 作業や移動をするときは、
急発進・急旋回をしません。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

正しく作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも、本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を  を付して説明のつど取り上げています。よくお読みいただくとともに必ず守っていただくようお願いいたします。

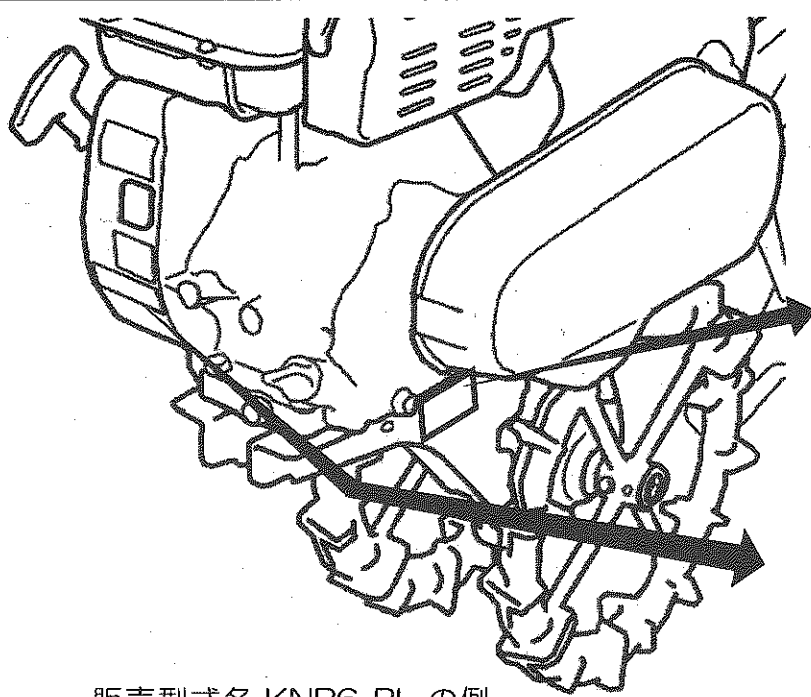
重要なお知らせ

- このたびは、斗セキ管理機をお買いあげいただき、まことにありがとうございました。
- 本商品は、畑の土揚げ・土入れなどの作業機として使用してください。
改造や使用目的以外の作業はしないでください。
改造や使用目的以外の作業をした場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）
- 株式会社 I S E K I アグリ（以下当社と記す）は、この取扱説明書記載の指示事項を守らなかったり、斗セキ管理機（以下管理機と記す）を改造したり、あるいは運転・保守作業にあたり、通常必要とされる注意または用心をしないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負いません。
- この管理機の取り扱い上の危険について、すべての状況を予測することはできません。したがって、この取扱説明書の記載事項や管理機に表示してある注意事項は、すべての危険を想定しているわけではありません。
よって、管理機の操作または、日常点検を行う場合は、この取扱説明書の記載および管理機本体に表示されている事項に限らず、安全対策に関しては十分な配慮が必要です。
- 管理機の性能、故障および耐久性は、それ自身の設計の良否、使用材料の適否および製作技術の巧拙によることはいくまでもありませんが、他方、日常の取扱、整備いかなによることも、また看過できません。
- この管理機は、国内での使用を前提にしています。したがって、海外諸国での安全規格等の適用・認定等は実施していません。この管理機を国外へ持ち出した場合に当該国での使用に対し、事故等による補償等の問題が発生することがあっても、当社は直接・間接を問わず一切の責任を免除させていただきます。
- 傷害の発生を避けるため、本来の使用目的以外の管理機の使用やこの取扱説明書に述べている以外の運転・保守作業はおやめください。
- 本管理機を譲渡又は貸与される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を管理機に添付してお渡しください。譲渡（または転売）される場合は、必ず譲渡先を当社へご連絡ください。また、添付されているすべてのものを譲渡し、譲渡（または転売）した側は一切の複製物を保持しないでください。
- この取扱説明書の内容は管理機の改良のため、予告なしに変更する場合があります。
- 本管理機とこの取扱説明書のイラストとは異なることがあります。またイラストの一部は、管理機内部の説明を容易にするために省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。この取扱説明書の全体もしくは部分的にも、当社の事前の文書による同意なしに複製、コピー、翻訳してはならず、また読み取りのできるいかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに「お買いあげ先」にご注文ください。
- さらに詳しい情報を必要としたり、質問があるとき、または内容につき不明な点がありましたら「お買いあげ先」へお問い合わせください。

型式と装備内容について

この取扱説明書では、同じシリーズの型式・区分の管理機について併記しています。
お買いあげいただいた管理機の型式名・区分を機体に貼付してある銘板で確認され、該当部分をお読みください。

■銘板の位置



〔販売型式名と製造番号〕

ISEKI

農業機械の種類 農用トラクター（歩行型）

区 分 BL


販売型式名 KNR6-BL

製造番号 000001

井関農機株式会社
ISEKI & CO., LTD. MADE IN JAPAN

〔エンジン型式名と機関番号〕

CODE FE170G-AB19



E/NO FE170G00001

型式名

機関番号

販売型式名 KNR6-BL の例

■区分記号と装備内容




区分記号	装備内容
B	ロータ幅21-25cm爪軸
N	爪軸注文装備
L	低車速仕様

安全にかかわる表示について

本管理機を安全にお使いいただくために、この取扱説明書の指示に従って操作・保守を行ってください。




また、管理機で危険が想定される箇所またはその付近には安全表示ラベルを貼付しています。取扱説明書および安全表示ラベルでは、危険の程度を表す方法として次の表示で区分しています。

■表示の説明

 危険	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
 注意	その警告に従わなかった場合、けがを負うおそれがあるものを示します。
注意	その警告に従わなかった場合、装置の破損、故障のおそれがあるものを示します。
補足	知っておくと役に立つ情報や、便利なことなどを示します。

■図記号の意味

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。それぞれの記号は次のような意味で区分しています。

(例) 	注意の喚起	この記号は指示を守らないと、危険が発生するおそれがあることを表します。記号の中の絵表示は危険の内容を図案化したものです。 (左図の場合は爆発注意)
(例) 	禁止行為	この記号は行為の禁止を表します。記号の中や近くの絵表示は、してはならない行為の内容を図案化したものです。 (左図の場合は火気厳禁)
(例) 	強制行為	この記号は行為の強制を表します。記号の中の絵表示は、しなければならない行為の内容を図案化したものです。危険を避けるためにはこの行為が必要です。 (左図の場合はメガネ着用)

目次

重要なお知らせ	i
型式と装備内容について	ii
安全にかかわる表示について	iii
目次	iv

1. 使用上のポイント

1.1 使用上のご注意	1
1.1.1 運転者の条件	1
1.1.2 作業をする前に	2
1.1.3 作業中は	3
1.1.4 トラックへの積み・降ろし	5
1.1.5 点検・整備	6
1.1.6 保管時は	8
1.2 安全表示ラベルについて	9
1.3 安全表示ラベル貼付箇所	9

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証	12
2.2 サービスネット	12
2.3 銘板の位置	12
2.4 補修用部品の供給年限について	12

3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称	13
3.1.1 全体	13
3.1.2 レバー関係	13
3.1.3 ロータリ関係	14
3.1.4 メンテナンス関係	14
3.2 始動装置と取り扱い	15
3.2.1 エンジンスイッチ (緊急停止スイッチ)	15
3.2.2 燃料コック	15
3.2.3 チョークレバー	15
3.2.4 アクセルレバー	15
3.2.5 スタータノブ	16

3.3 運転装置と取り扱い	16
3.3.1 主クラッチレバー (左側)	16
3.3.2 ロータリクラッチレバー (右側)	16
3.3.3 変速レバー	17
3.3.4 ハンドル上下レバー	17
3.3.5 耕深調節ハンドル	18
3.3.6 車輪締付ハンドル	18
3.3.7 作業機用支柱	18
3.3.8 燃料ゲージ	18

4. 作業前点検

4.1 点検項目	19
4.1.1 エンジンを始動する前に	19
4.1.2 エンジンを始動して	20
4.2 各部の給油と検油	20
4.2.1 エンジンオイル	20
4.2.2 ミッションオイル	21
4.2.3 燃料給油	21

5. 運転のしかた

5.1 エンジンの始動と停止	22
5.1.1 始動のしかた	22
5.1.2 停止のしかた	23
5.2 発進と運転のしかた	24
5.2.1 発進と変速のしかた	24
5.2.2 停止のしかた	25

6. 作業のしかた

- 6.1 作業に適した調節のしかた 26
 - 6.1.1 ハンドル調節のしかた 26
 - 6.1.2 クラッチレバーの握り調節のしかた 26
 - 6.1.3 ロータ幅の調節のしかた (B型) .. 27
 - 6.1.4 車輪幅の調節のしかた 27
- 6.2 土揚げ作業のしかた 28
 - 6.2.1 ロータリカバーの調節のしかた 28
 - 6.2.2 耕深調節のしかた 28

7. 点検整備

- 7.1 毎日の手入れ 29
- 7.2 長時間使用しない場合の手入れ 29
- 7.3 定期点検・点検箇所一覧表 30
- 7.4 各部の注油 31
 - 7.4.1 クラッチケーブル、レバー支点 31
 - 7.4.2 変速レバー支点 31
 - 7.4.3 テンションアーム支点 31
- 7.5 各部オイルの点検・交換 32
 - 7.5.1 エンジンオイル 32
 - 7.5.2 ミッションオイル 32
- 7.6 エアクリーナの清掃 33
- 7.7 燃料の抜きかた 33
 - 7.7.1 燃料の抜きかた 33
 - 7.7.2 燃料フィルタの清掃 33
- 7.8 点火プラグの整備 34
- 7.9 残耕処理刃の交換 34
- 7.10 爪の取り付けかた (B型) 35

8. 格納時の手入れ

- 8.1 日常の格納 36
- 8.2 長期の格納 36
- 8.3 長期格納後の使用 36

9. 不調時の処置

- 9.1 不調時の処置 37

10. 付表

- 10.1 推奨潤滑油一覧表 39
- 10.2 標準付属品 39
- 10.3 主要諸元表 40
- 10.4 主な消耗部品一覧表 41

1. 使用上のポイント

本管理機を安全に正しくご使用になるために必要な情報が記載されています。

1.1 使用上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、ここで説明する注意事項をよく読んで理解し、安全に活用してください。記号の説明については「安全にかかわる表示について」の説明を参照してください。

1.1.1 運転者の条件

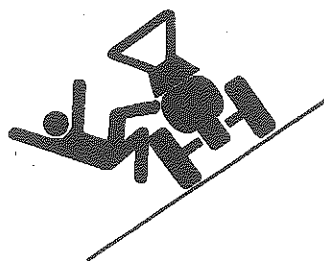


警告



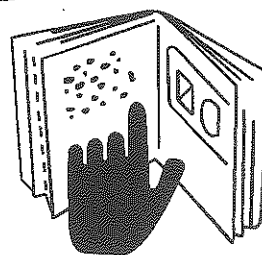
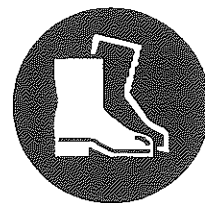
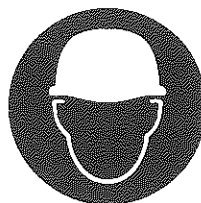
このような人は、運転をしないでください。

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できないとき
 - 18才未満の人
 - 妊娠しているとき
 - 酒を飲んだとき
 - 本書及びラベルの内容が理解できない人
 - 視力不足等のため表示内容が読めない人
- ※ 誤操作しやすく思わぬ事故の原因になります。



作業に適した服装を着用してください。

はち巻き・首巻き・腰タオルは厳禁です。
ヘルメット・滑り止めのついた靴を着用し、
保護メガネ、手袋等作業に適した防護具を
つけ、だぶつきのない服装をしてください。
※ 機械に巻き込まれたり、滑って転倒し、
傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械を貸与又は譲渡する場合は正しい使い
方を指導してください。

取り扱いの方法をよく説明し、使用前に
「取扱説明書」を必ず読むように指導して
ください。貸与・譲渡するときは、取扱説
明書を管理機に添付してお渡してください。

※ 借りた人が、機械の運転に不慣れな
ため、思わぬ事故を引き起こすこと
があります。

1.1.2 作業をする前に

⚠ 危険



燃料補給は、エンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。
また、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。

※ 守らないと、燃料に引火し、ヤケドや火災の原因になることがあります。



作業をする前に、この取扱説明書を参考にして必要な点検は必ず行ってください。

特にクラッチ関係は、忘れないでください。点検を怠ると、性能が出せないばかりか、故障したり、停止したいときにクラッチが切れなくなることがあります。

※ 守らないと、死亡事故や傷害、機械の破損の原因になります。

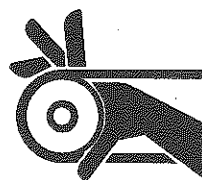


⚠ 警告



エンジンを始動する前に、安全カバー類が外されたままになっていないか確認してください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、重大な傷害事故を起こします。



無理、無駄のないゆとりある作業計画を立ててください。

※ 守らないと、あせりなどから傷害事故を引き起こすことがあります。



エンジンを始動するときは必ず主クラッチレバーとロータリクラッチレバーを「切」にし、変速レバーを「中立」位置にし、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



誤って燃料を飲んだり、目に入った場合は速やかに専門医に相談してください。

※ 守らないと、身体を害するおそれがあります。

⚠ 注意



屋内でエンジンを始動する場合は、十分に換気をしてください。

閉め切った屋内などではエンジンを始動しないでください。

※ 守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

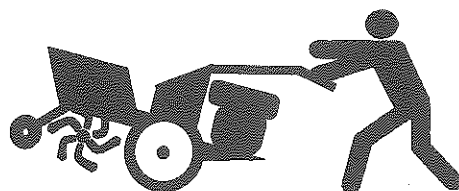
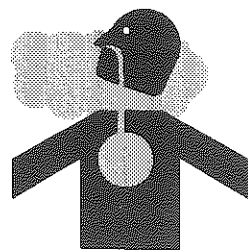
エンジンを始動する前にスタータノブが軽く引けることを確認してください。

※ 守らないと、肩等を痛めるおそれがあります。

発進するときは、周囲の安全を確認して、ゆっくり発進してください。

特に子供に注意してください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.3 作業中は

気象条件などに注意して、作業実施の判断、作業方法や装備の選択に十分配慮してください。

⚠ 警告



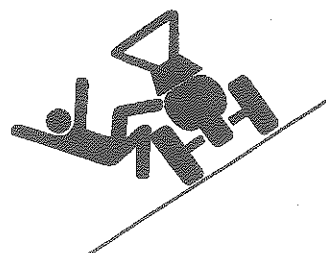
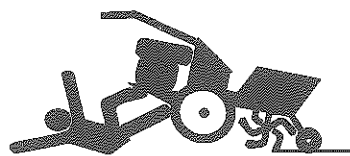
● 土が硬い所では、耕深調節を浅くしてロータリをゆっくり下げてください。回転する爪の勢いで急に手前に飛び出します。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。

● 畦を横断するときは、いったん停止してエンジンの回転を低くして、畦と直角にゆっくり走行してください。

● 畦の高さが高いところでのほ場の出入りでは必ずアユミ板を使用してください。

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、スリップや転倒し傷害事故を起こすことがあります。



警告



- 傾斜地で作業する場合、転倒やスリップをしないようバランスに十分注意してください。



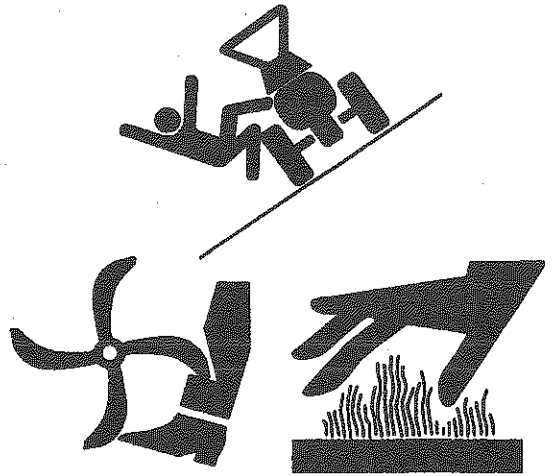
- 旋回する時はエンジン回転を下げ、足もとに特に注意して、爪などに巻き込まれないようにしてください。
- 爪などの回転部や、マフラ・エンジン等の過熱部など、危険な箇所には体や服を触れないでください。
- 本管理機は、前照灯を備えていませんので、夜間の作業は絶対に行わないでください。

※ 守らないと、重大な傷害事故を引き起こす原因になります。



- 後進をするときは、後方や足もとに十分注意し、エンジンの回転を低くしてください。後進時は機体の姿勢やバランスが急に変わります。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



注意



- 作業中は周りの人（特に前方や横）に注意してください。

作業中は、作業員以外の人を機械に近づけないでください。

作業を開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業するときは、声をかけて合図してから行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

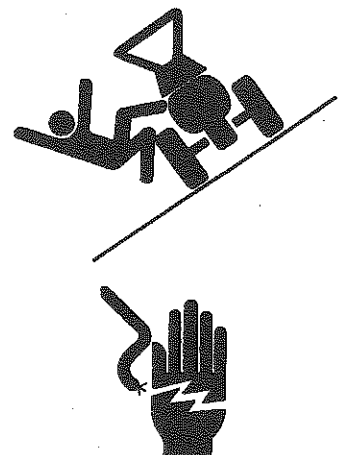
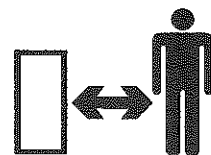
- 機械を離れるときは、「平らな場所」を選びエンジンを止めておいてください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



- 始動時や運転中に点火プラグやプラグキャップおよび高圧コードに触れないでください。

※ 守らないと、感電のおそれがあります。

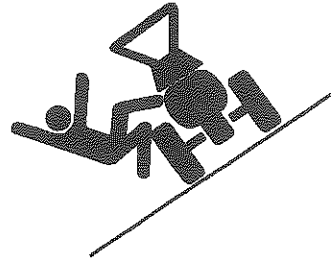


1.1.4 トラックへの積み・降ろし

⚠ 警告

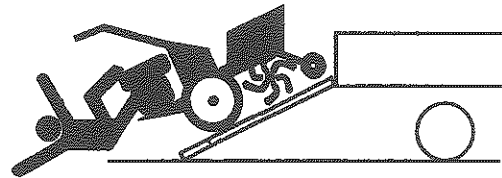


- 積み・降ろしは、平地で安定した場所を選んでください。
 - 積み込むトラックは、エンジンを止め変速を「P」・「R」または「1速」にして、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- ※ 守らないと、積み・降ろし時、トラックが動いて転落事故を引き起こすおそれがあります。



基準に合った強度のある、すべらないアユミ板を使用し、アユミ板のフックをトラックの荷台に外れないように確実にかけてください。

- ※ 守らないと、アユミ板が外れたりして転倒し、傷害事故を起こすことがあります。



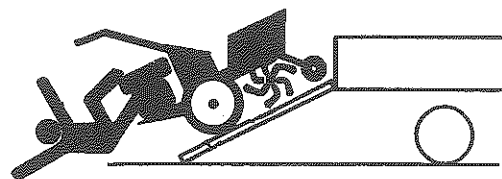
〈アユミ板の選び方〉

- 長さ……車の荷台高さの4倍以上。
- 幅………30cm以上（柱を除いた歩行部幅）
- 強度………300kg以上（1枚あたり）
- すべらないよう処理してあること。



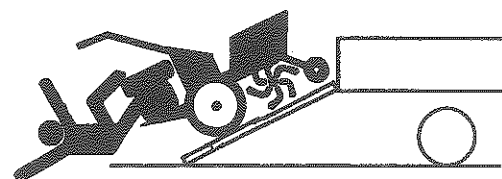
積み込みのときは「1速」、積み降ろしのときは「後進」でゆっくり行い、残耕処理刃と爪がアユミ板から常に10cmくらい離れるよう姿勢に注意して行ってください。

- ※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



積み・降ろしのときは、ロータリクラッチレバーを決して「入」にしないでください。

- ※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こすおそれがあります。



警告



- 積み降ろし中にアユミ板の上で主クラッチレバー、ロータリクラッチレバー、変速レバーの操作はしないでください。

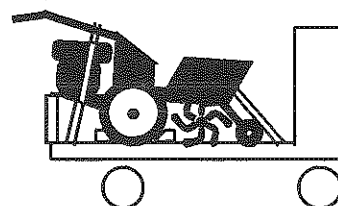
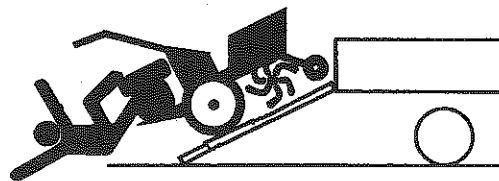
※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



- トラックに積んで運搬するときは、タイヤが動かないよう車止めをし、ロープ等で荷台に固定してください。
- 運搬中は急発進・急旋回・急ハンドル運転をしないでください。

燃料コックを「停止」にしてください。

※ 守らないと、衝撃で機械を破損させたり、転落事故を起こすことがあります。



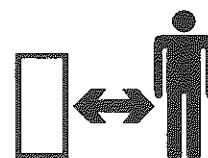
注意



誘導者を付けて、周囲の状況を十分確認して行ってください。

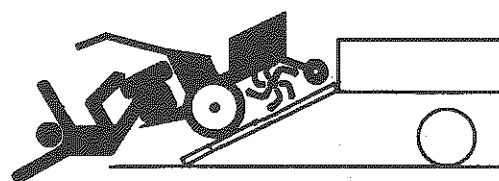
機械の直前や直後、真横には誘導者を絶対に立たせないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こす原因になります。



アユミ板から荷台に移るとき、急に機体の角度が変わりますので、十分注意してください。

※ 守らないと、転倒事故を引き起こすおそれがあります。



1.1.5 点検・整備

危険



点検・整備は必ずエンジンを止め、マフラ等の過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

※ 守らないと、ヤケドや傷害事故を引き起こすおそれがあります。



機械から抜き取った、引火の恐れのある燃料等は、火気厳禁とした所定の格納庫か、危険のない場所に置いてください。

※ 守らないと、火災を引き起こすおそれがあります。

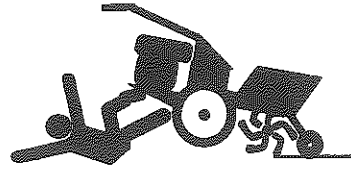


⚠ 警告



管理機のご使用の前後に、日常の点検・整備を行うほか、定期的に点検整備を行って、常に管理機および作業機を安全な状態に保つようにしてください。

※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



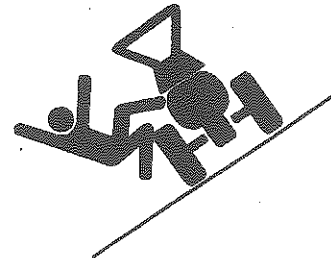
指定以外のアタッチメントの取り付けや、改造は絶対にしないでください。

※ 守らないと、故障や事故の原因になります。



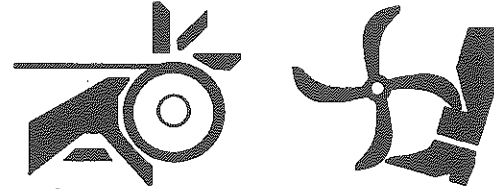
作業機の装着が終わったときは、指定の場所に確実に装着されているか、ピンに抜け止めピンがしてあるかどうか確認してください。

※ 守らないと、作業機が外れたりして重大な傷害事故の原因となります。



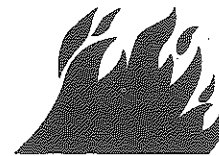
点検・整備で取り外した安全カバー類は、必ず元のとおりに取り付けてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を起こします。



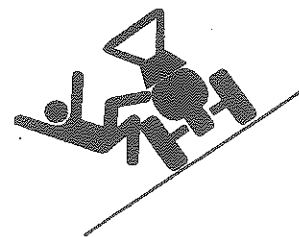
マフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミなどは、取り除いてください。

※ 守らないと、火災の原因となります。



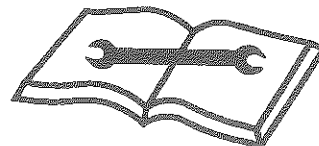
点検・整備するときは、地面が平たんで硬く、明るく広い場所で行ってください。

※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすことがあります。



点検・整備は適正な工具を正しく使用して行ってください。

※ 守らないと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こすことがあります。

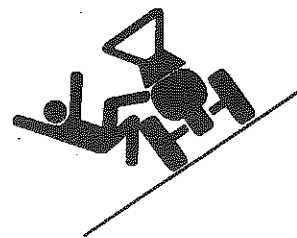


⚠ 注意



点検・整備するときは、常に機体のバランスに気をつけてください。

- ※ 守らないと、機械を破損させたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。



点検・整備するときは、開閉するロータリカバーや耕深調節する車輪などを固定してください。

- ※ 守らないと、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

抜き取った廃油等は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼してください。

- ※ 廃油等を棄てたり焼却・放置すると、法令違反となり処罰されます。

1.1.6 保管時は

⚠ 警告



燃料ホースの破損や、燃料もれがないか、保管前に必ず点検してください。

- ※ 守らないと、火災の原因になることがあります。



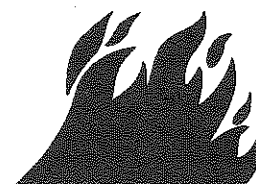
平たんな安定した場所に保管してください。

- ※ 守らないと、燃料が漏れ、火災の原因になることがあります。



シートカバーなどを機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。また、マフラやエンジン周辺部のワラくず、ゴミ等は、取り除いてください。

- ※ 守らないと、火災の原因になることがあります。

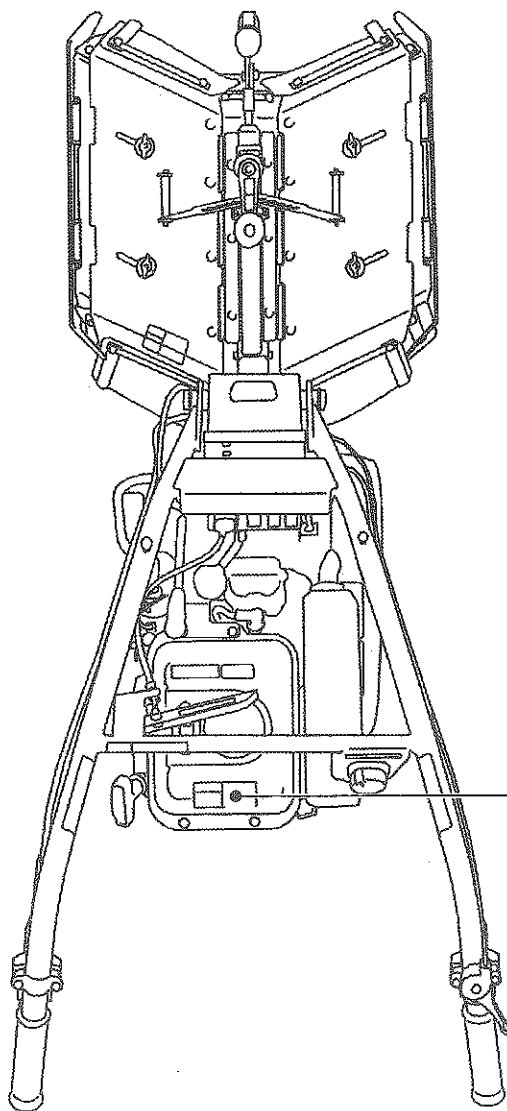


1. 2 安全表示ラベルについて

- (1) この管理機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- (2) 安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合は、新しいラベルを注文し貼り替えてください。
- (3) 汚れた場合は、きれいに拭き取り、いつでも読めるようにしてください。
- (4) 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買いあげ先へ注文してください。
- (5) 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。圧力水を直接ラベルにかけないでください。

1. 3 安全表示ラベル貼付箇所

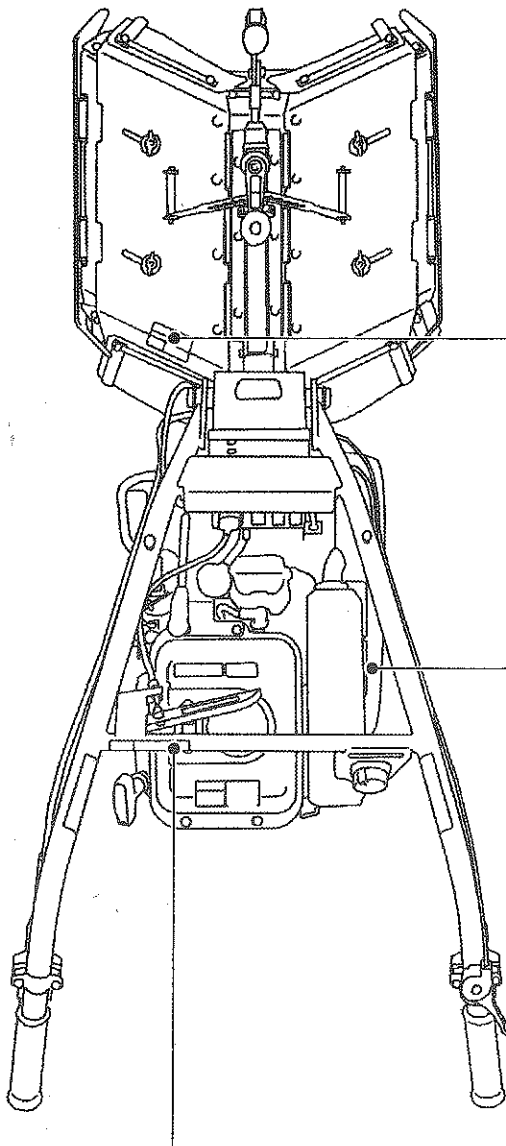
⚠ 危険





2161-901-038-0
ラベル (キケン/カキゲンキン)

1. 使用上のポイント



警告




 警告	ロータリが回転している時はロータリに巻き込まれる恐れがあります。足を近づけないでください。
	1116-902-005-0

1116-902-005-0
ラベル（ケイコク／ロータリ）

（ベルトカバー上面）

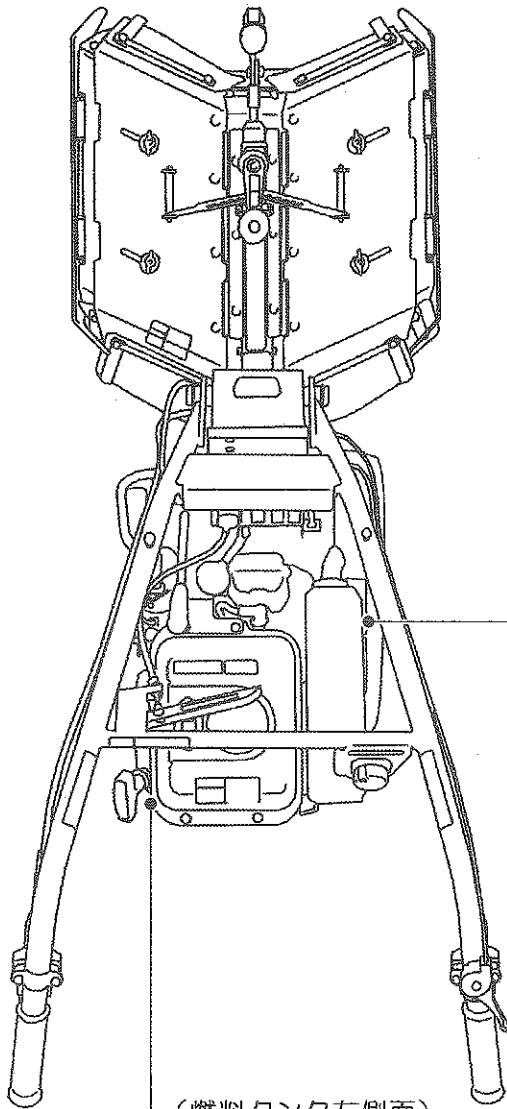
 警告	やけどをするのでマフラーにさわらないでください。
	1675-905-007-0

1675-905-007-0
ラベル（ケイコク／マフラ）

 警告	後進時は、後方に注意し、エンジンを低回転にして、徐々にクラッチレバーを握り、ゆっくりと発進してください。
	1118-901-024-0

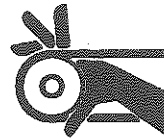
1118-901-024-0
ラベル（ケイコク／バック）

⚠ 注意



(ベルトカバー上面)

⚠ 注意



ベルトに接触しケガをするおそれがありますので、運転中はカバーを開けないでください。

1118-901-016-0

1118-901-016-0

ラベル (チュウイ/ベルト)

(燃料タンク左側面)

⚠ 注意



運転操作をする前に、必ず取扱説明書をよくお読みください。

1. すべてのカバー・キャップ類を所定の位置に取りつけてください。
2. 子供や機械を使わない人を近付けないでください。
3. 点検、整備、給油をする時は、必ずエンジンをとめてください。
4. 回転物には、手足や衣服を近付けないでください。
5. 排気ガス中毒防止のため、十分換気に注意してください。
6. 後進時、後に障害物がないことを確認してください。
7. 傾斜地や悪条件の土地での作業は、安全に十分注意してください。

1108-902-019-0

1108-902-019-0

ラベル (チュウイ/ソウサ)

2. 保証とサービスについて

2.1 商品の保証

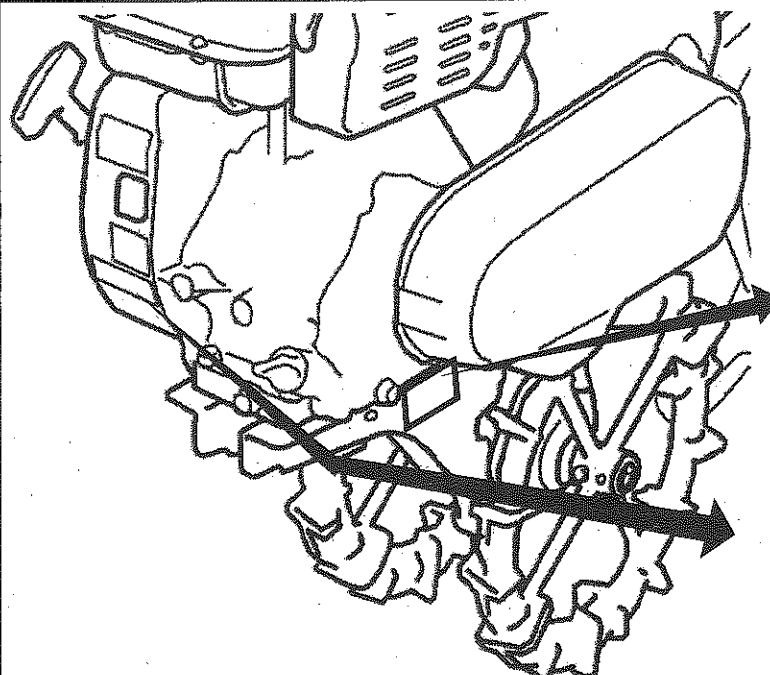
この商品には、『中セキ保証書』が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

2.2 サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、およびサービスに関するご用命は、お買いあげ先へお気軽にご相談ください。その際

- (1) 販売型式名と製造番号
 - (2) エンジン型式とエンジン機関番号
- を併せてご連絡ください。

2.3 銘板の位置



【販売型式名と製造番号】

ISEKI	
農業機械の種類 農用トラクター(歩行型)	
区 分	BL
販売型式名	KNR6-BL
製造番号	000001
製造会社 井関農機株式会社 ISEKI & CO., LTD. MADE IN JAPAN	

【エンジン型式と機関番号】

型式名	CODE FE170 G AB19
機関番号	E/NO FE170 G 000001

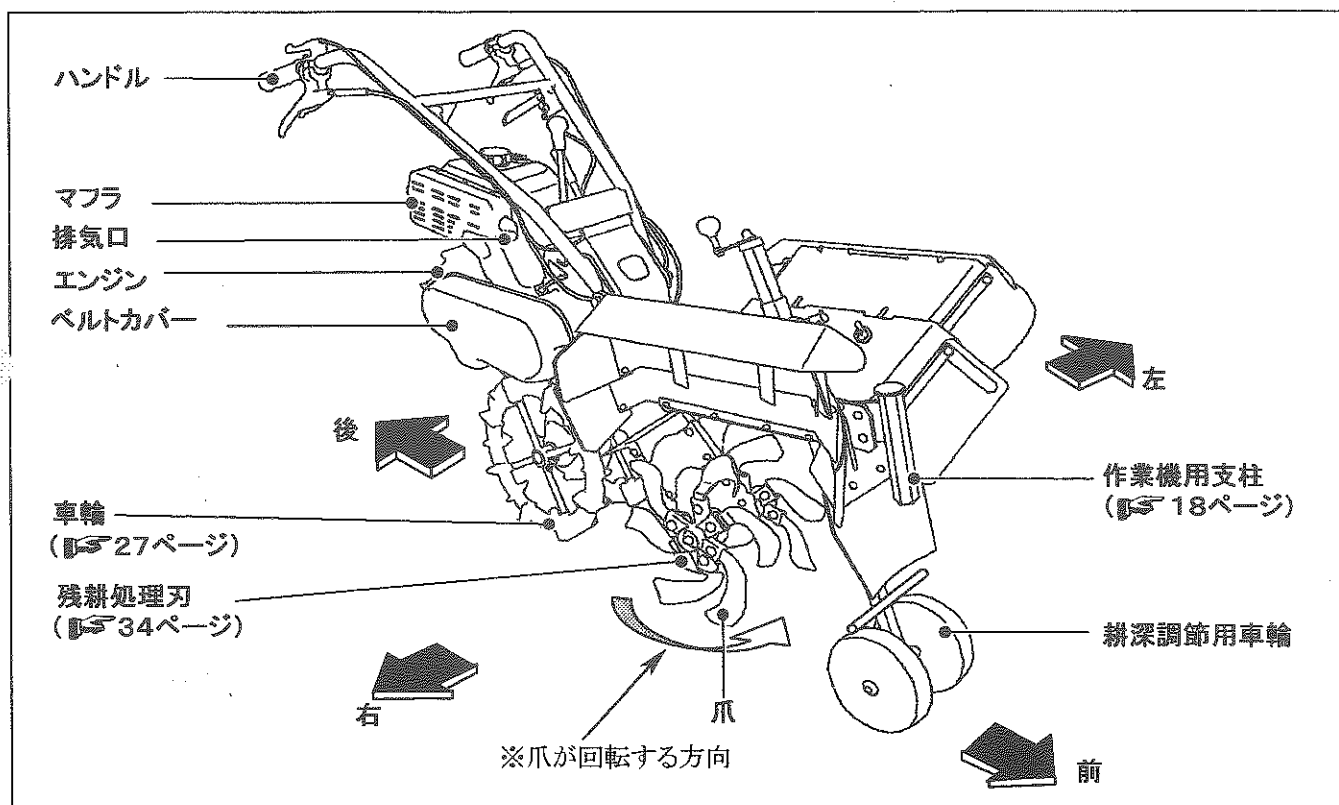
2.4 補修用部品の供給年限について

- この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後 9 年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
- 補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には納期および価格についてご相談させていただきます。

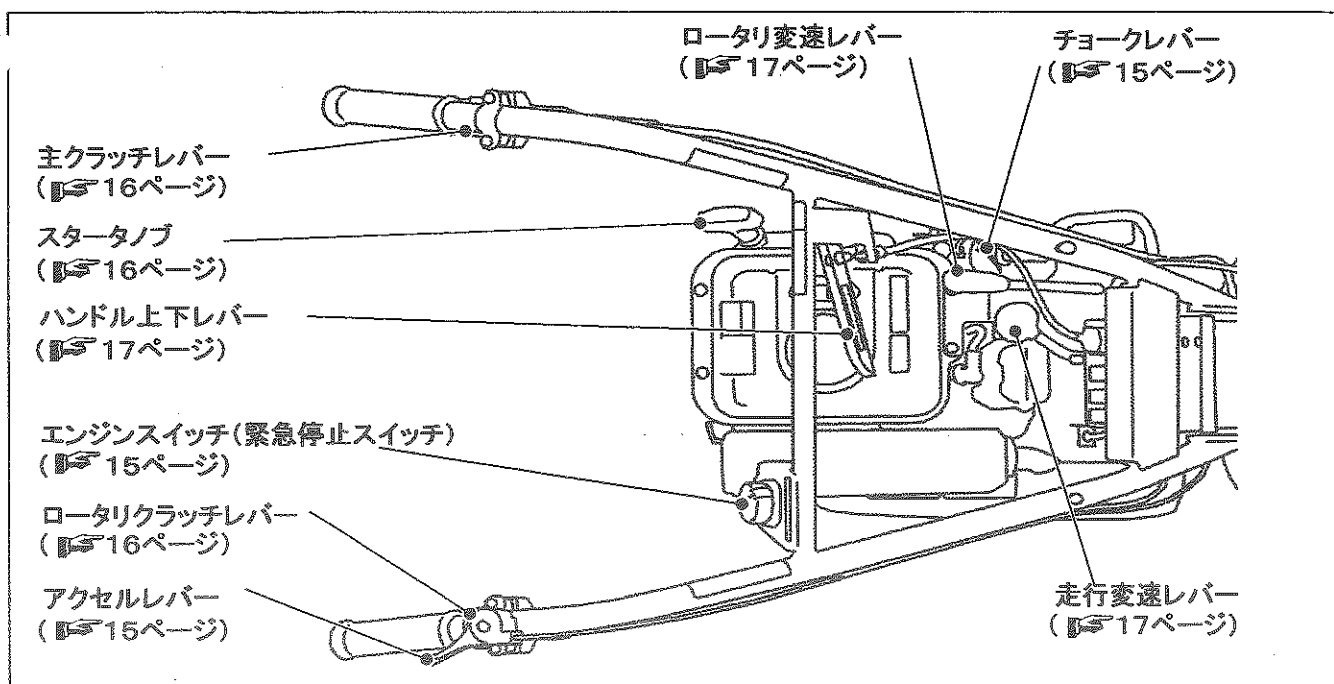
3. 各部の名称とはたらき

3.1 各部の名称

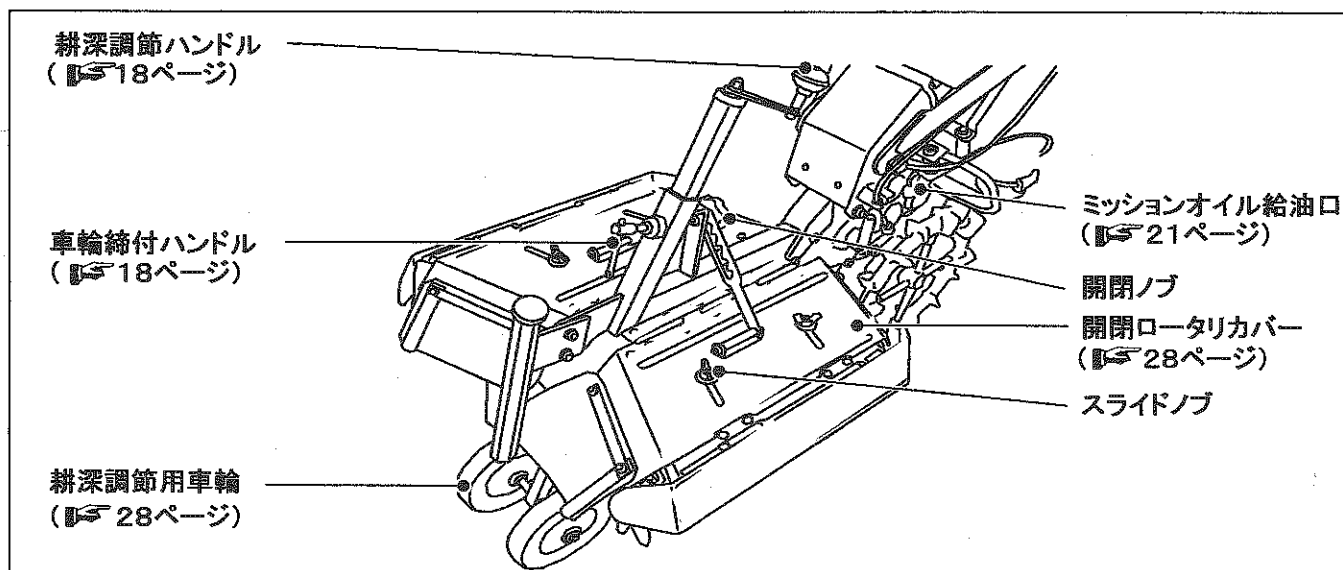
3.1.1 全体



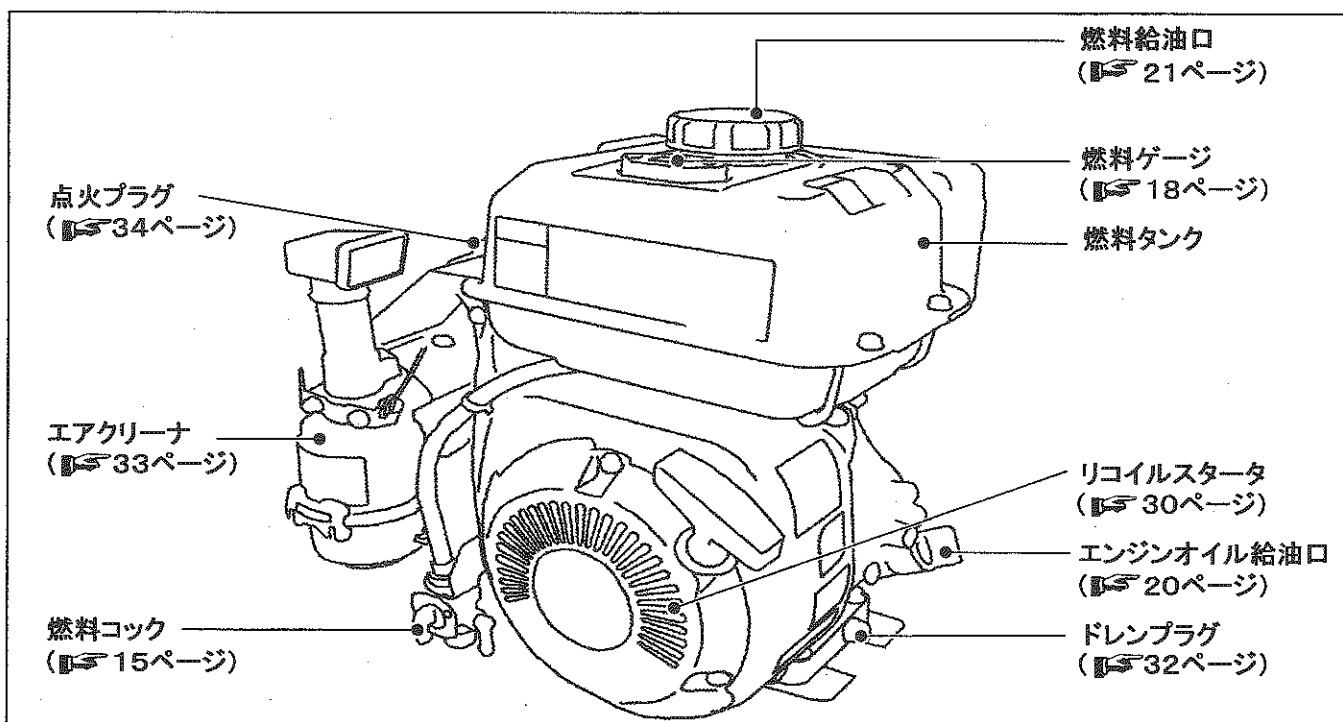
3.1.2 レバー関係



3.1.3 ロータリ関係



3.1.4 メンテナンス関係



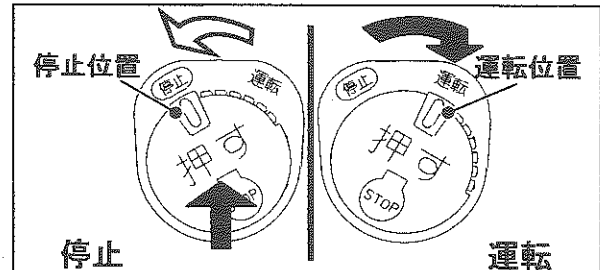
3.2 始動装置と取り扱い

3.2.1 エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ）

エンジンを「停止」と「運転」の状態に切りかえるスイッチです。

停止……スイッチを押すと自動的に停止側を向きエンジンが停止状態になる。

運転……スイッチを運転側に回したまま引き上げるとエンジンが運転状態になる。



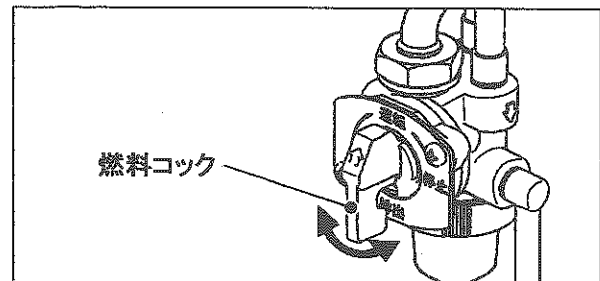
3.2.2 燃料コック

燃料タンクの燃料を流したり、止めたりするコックです。（矢印 ↑ の先を表示に向けます）

停止……燃料を止める。

運転……燃料が流れる。

排出……燃料タンクとキャブレタ内の燃料を排出する。



3.2.3 チョークレバー

注意



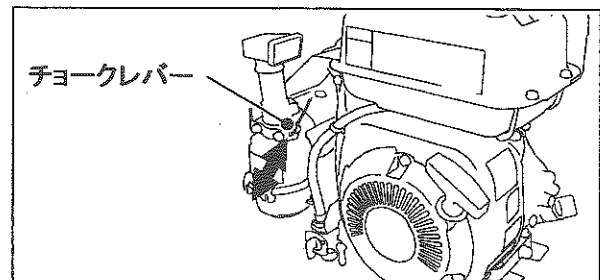
始動後はエンジンの調子を見ながら、徐々に「運転」位置まで戻してください。

※ 「始動」位置のままだと、エンジンが不調になります。

エンジンの始動時に操作します。

始動時……レバーを引く

運転時……レバーを押し込む

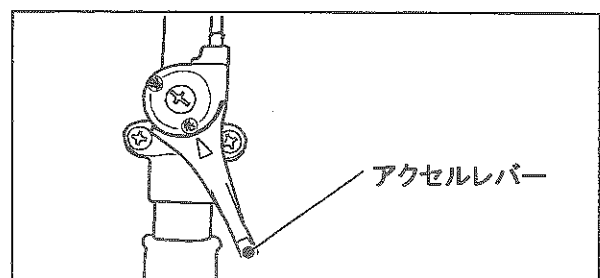


3.2.4 アクセルレバー

エンジンの回転数を調節するレバーです。

時計回りに回す……エンジンの回転が上がる。

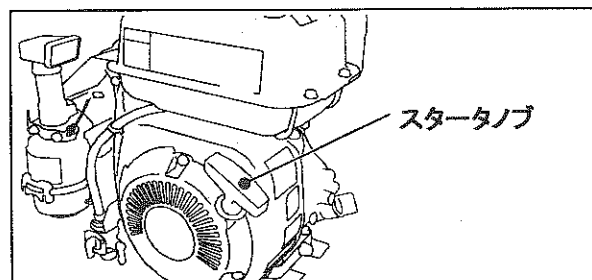
反時計回りに回す…エンジンの回転が下がる。



3. 各部の名称とはたらき

3.2.5 スタータノブ

エンジンを始動するとき、このノブを引っ張ります。
スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から勢いよく引っ張ってください。
戻すときはノブを手から離さずに静かに戻してください。



3.3 運転装置と取り扱い

3.3.1 主クラッチレバー（左側）

⚠ 危険



主クラッチレバーから手を放しただけでは、クラッチは「切」にはなりません。
解除レバーを握って「入」状態の固定を解除するか、緊急の場合には、エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ）を押してエンジンを停止してください。

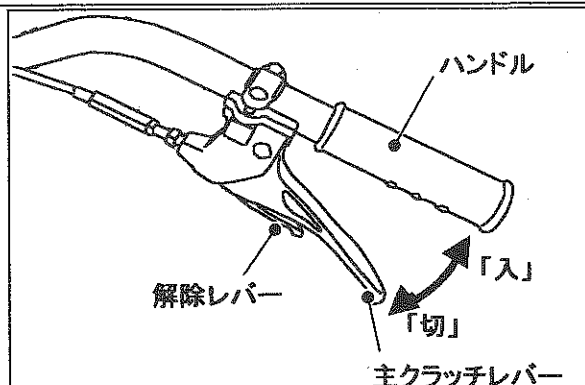
※ 守らないと、止めたい時に止まらずに、傷害事故を起こすおそれがあります。

エンジンからの動力伝達を「入」⇔「切」するレバーです。

主クラッチレバーを握ると動力が伝わります。

主クラッチレバーをいっぱい握ると、解除レバーが自動的に、主クラッチレバーを「入」の状態に固定します。

動力伝達を「切」る場合は、解除レバーを握ると、固定が解除されて主クラッチレバーが戻り、動力が遮断されます。



3.3.2 ロータリクラッチレバー（右側）

⚠ 危険



ロータリクラッチレバーから手を放しただけでは、爪の回転は止まりません。
解除レバーを握って「入」状態の固定を解除したうえで ロータリを少し持ち上げるか、緊急の場合には、エンジンスイッチ（緊急停止スイッチ）を押してエンジンを停止してください。

※ 守らないと、止めたい時に止まらずに、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告



旋回時や後進時、トラックなどへの積み降ろしのときは、ロータリクラッチレバーを必ず「切」にしてください。

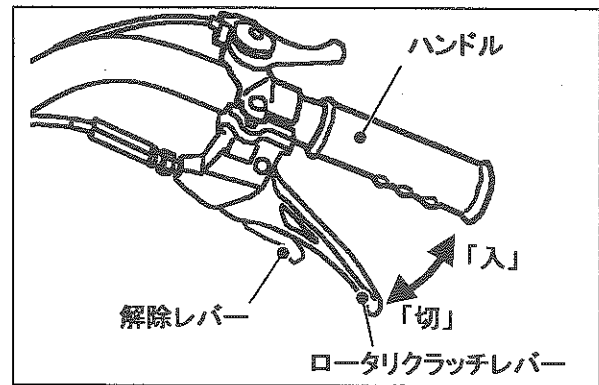
また、クラッチレバーに手をかけずにハンドルだけをしっかりと握ってください。

※ バランスをくずしたときに思わぬ動きをして、事故を起こすおそれがあります。

ロータリの回転を「入」⇄「切」するレバーです。ロータリクラッチレバーを握ると爪が回ります。レバーをいっぱい握ると、解除レバーが自動的に、ロータリクラッチレバーを「入」の状態に固定します。

動力伝達を「切」る場合は、解除レバーを握ると、固定が解除されてロータリクラッチレバーが戻り、動力が遮断されます。

作業中は、クラッチを「切」にした後、爪が土から出た時に爪の回転が止まります。

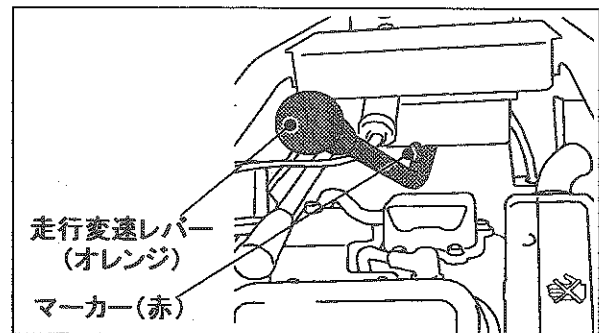


3.3.3 変速レバー

走行車速とロータリ変速を切り換えるレバーです。主クラッチを切り機体が停止してから、作業に応じ選択した位置にレバーを合せてください。

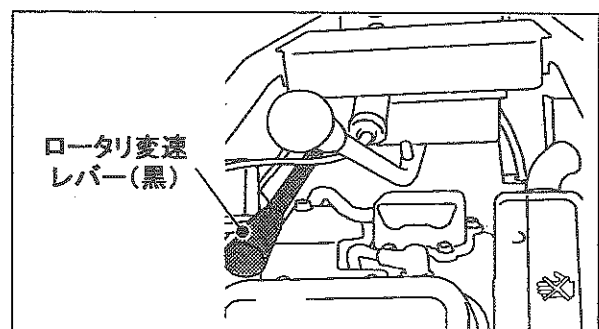
■ 走行変速レバー

マーカー位置	方向と動き
3	高速で前進します。
2	中速で前進します。
1	低速で前進します。
中立	タイヤは回りません。
後進	後進します。爪を浮かせてください。



■ ロータリ変速レバー

レバー位置	爪の回転
高速	高速で回転します。
低速	低速で回転します。

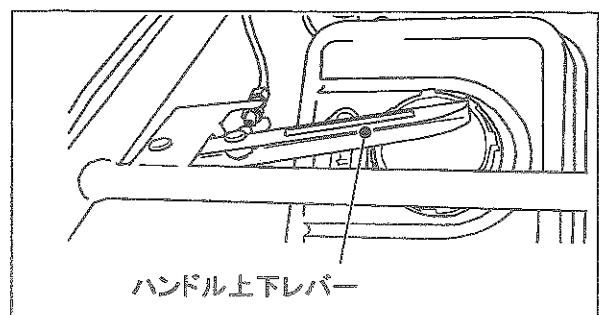


3.3.4 ハンドル上下レバー

ハンドル上下レバーを握るように手前に引くと、ハンドルの高さを上下5段の範囲で調節できます。レバーを握りながらハンドルを上下に動かし、体格や作業状態に合せた好みの位置でレバーを放すと、ハンドルが固定されます。

補足

- トラックへの積み降ろし中や、傾斜地など不安定な場所では調節しないでください。



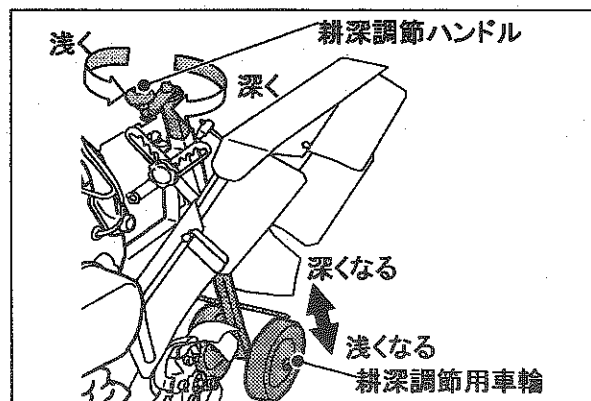
3.3.5 耕深調節ハンドル

作業深さを微調節するハンドルです。

時計回りに回す……車輪が上がり耕深が深くなって、揚げ土量が多くなる。

反時計回りに回す…車輪が下がり耕深が浅くなって、揚げ土量が少なくなる。

※ 浅くし過ぎると、ネジがはずれます。



3.3.6 車輪締付ハンドル

耕作深調節ハンドルを含む車輪の柱全体を固定するハンドルです。移動の時など車輪を大きく動かしたい場合に使います。このハンドルで大まかな位置を決めて、耕作深調節ハンドルで微調節してください。

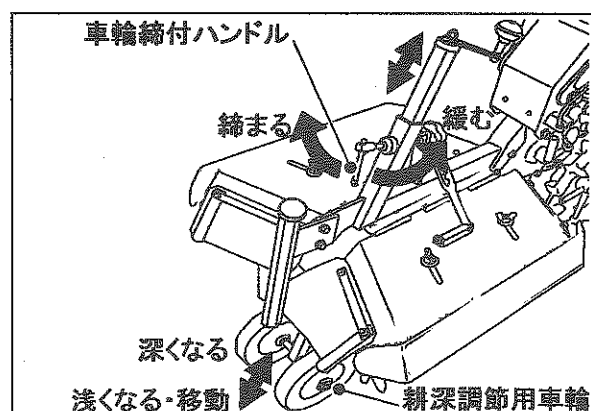
1 反時計回りに回す……緩んで上下に動きます。

2 ①耕作深調節ハンドルを上げる…深くする

②耕作深調節ハンドルを下げる…移動する

3 時計回りに回す……締付けて固定します。

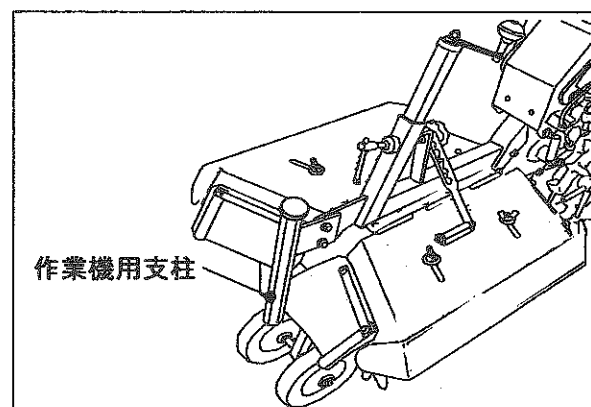
※ 硬い所では浅めに調節してください。



3.3.7 作業機用支柱

うねの法面を削るネギ整形器（オプション）を取り付ける為の支柱です。

運搬時にはロープを掛けるフックとして使えます。



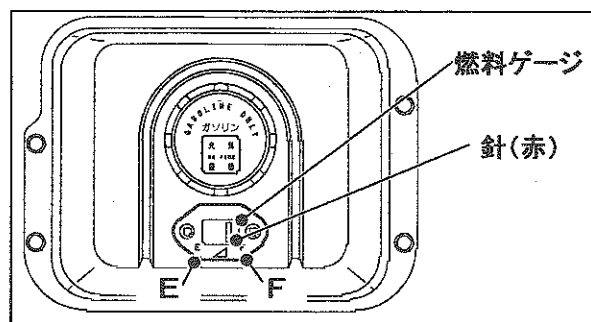
3.3.8 燃料ゲージ

燃料残量を確認するゲージです。

窓の中の赤い針が「E」に近づくほど、燃料の量が少ないことをあらわしています。

ゲージの針がF……燃料が満タンです

ゲージの針がE……燃料が残りわずかです。早めに燃料を補給してください。



4. 作業前点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
作業前点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 危険



燃料を補給するときは火気厳禁です。くわえタバコなどをしないでください。

※ 守らないと、火災の原因となります。



必ずエンジンを停止してから、行ってください。

※ 守らないと、手や衣服が巻き込まれたり、はさまれたりするおそれがあります。

燃料、オイルがこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。

※ 守らないと、火災などを引き起こすことがあります。

4.1 点検項目

4.1.1 エンジンを始動する前に

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
前日異常のあった箇所	・再度異常がないか点検します。	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
安全表示ラベルの点検	・はがれ、破損等ありませんか。	・ある場合は新しいものに貼り替えてください。	9
油 漏 れ	・各部に漏れがありませんか。	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
燃料漏れ	・燃料が漏れがありませんか。	・ある場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
エンジンオイル	・エンジンを水平にして、オイルゲージの上下限の間に油量がありますか。	・不足している場合は補給してください。	20
ミッションオイル	・エンジンを水平にして、給油口からあふれ出る寸前まで入っていますか。	・不足している場合は補給してください。	21
エアクリーナ	・オイルパン内のオイルが汚れていませんか。	・汚れている場合は清掃してください。	33
燃料コック	・フィルタポットに水や沈殿物がたまっていますか。	・たまっている場合は清掃してください。	33
燃料タンク	・作業に必要な量が入っていますか。	・不足の場合は補給してください。	21
爪	・摩耗していませんか。	・摩耗が激しい場合は交換してください。	35
残耕処理刃			34

4. 作業前点検

4.1.2 エンジンを始動して

点検箇所	点検項目	処 置	参照ページ
排気ガス	・白煙や黒煙を吐きませんか。 ・異常な音はしませんか。	・白煙や黒煙を吐く場合や異常な音がする場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
主クラッチレバー	・ベルトが付き回りしていませんか。	・付き回りしている場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
ロータリクラッチレバー	・クラッチ「切」にしたときに、確実に爪の回転が止まりますか。	・空中で爪を回していても止まらない場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—
エンジンスイッチ	・スイッチを停止にしたとき、エンジンが停止しますか。	・停止しない場合は「お買いあげ先」に相談してください。	—

4.2 各部の給油と検油

4.2.1 エンジンオイル

■給油

良質のSF級以上のもので夏期はSAE30、冬期はSAE20を使用してください。

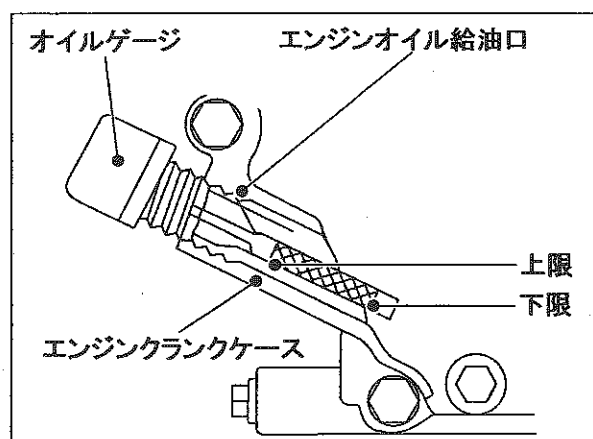
エンジンオイル容量	0.6L
-----------	------

■検油

- 1 オイルゲージを抜いてオイルをきれいに拭き取り、ねじ込まないで給油口に差し込みます。
- 2 再度抜いて、ゲージの上限と下限の間にオイルがついているか確認します。
上限と下限の間にあれば正常です。
- 3 下限以下の場合は、上限まで補給してください。

補 足

- エンジンを水平にした状態で、給油・検油してください。
- オイル給油口周りのゴミや汚れを取ってからオイルゲージを抜いてください。
- 取り外したオイルゲージは、砂・ゴミ等が付かない場所に置いてください。
- 給油口と検油口は兼用になっています。
検油をした後は、オイルゲージを確実に締め付けてください。
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。（P. 39ページ）
- 汚れや変色がひどい場合は、交換してください。（P. 32ページ）



4.2.2 ミッションオイル

■給油

ハイポイドギヤーオイル#80を給油口からあふれ出る寸前まで入れてください。

ミッションオイル容量	約 5.2 L
------------	---------

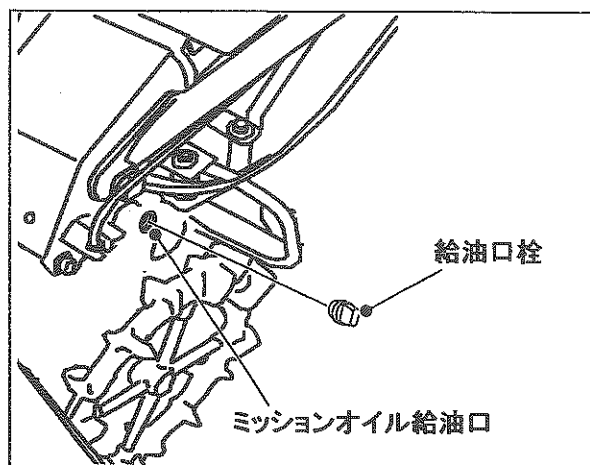
■検油

1 給油口栓を開け、オイルが給油口からあふれ出る寸前まで入っているかどうかを確認します。オイルがあふれ出る寸前まで入っていれば正常です。

2 オイルが不足している場合は、給油口からあふれ出る寸前まで補給してください。

補足

- エンジンを水平にした状態で、検油してください。
- 給油口と検油口は兼用になっています。検油をした後は、給油口栓をしっかりと閉めてください。
- 使用オイルは、推奨潤滑油一覧表をお読みください。(P. 39ページ)



4.2.3 燃料給油

⚠ 警告



燃料を入れ過ぎないでください。また、こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

※ 傾斜時に燃料キャップから燃料があふれ、こぼれた燃料に引火し、やけどや火災の原因となります。

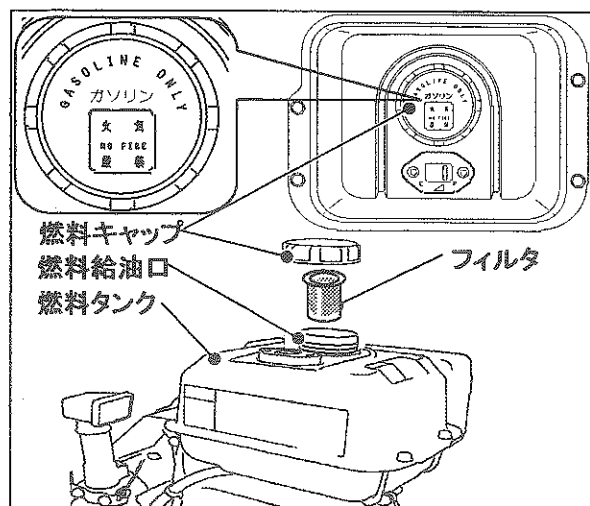
燃料は燃料キャップを開けて給油してください。給油後、燃料キャップは右の絵の向きになるように確実に閉めてください。

燃料は自動車用無鉛ガソリンを入れてください。

燃料タンク容量	約 3.4 L
---------	---------

補足

- 燃料タンク内に、ゴミなどが入らないよう給油時は、フィルタを取らないでください。



5. 運転のしかた

⚠ 注意



運転前には必ず作業前点検を行ってください。

※ 守らないと、正常な運転ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

5.1 エンジンの始動と停止

5.1.1 始動のしかた

⚠ 警告



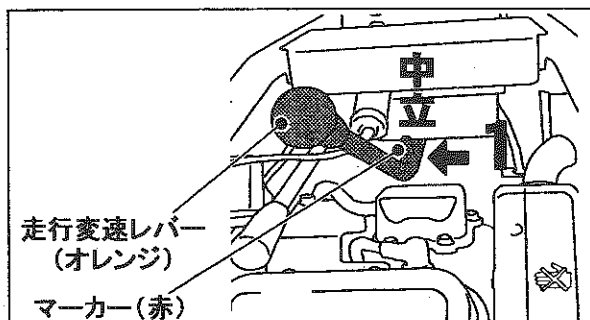
室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。

※ 換気が不十分な場合、排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。

エンジンを始動するときは、レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。

※ 守らないと、急発進することがあり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

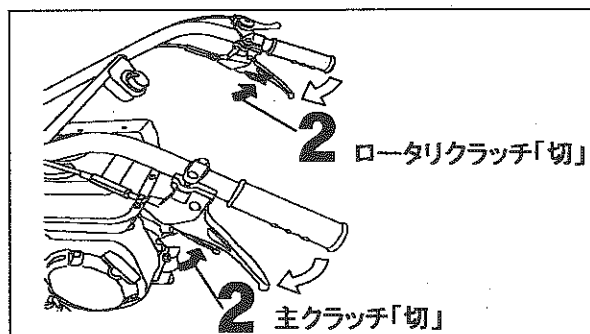
- 1 走行変速レバーを「中立」位置にしてください。



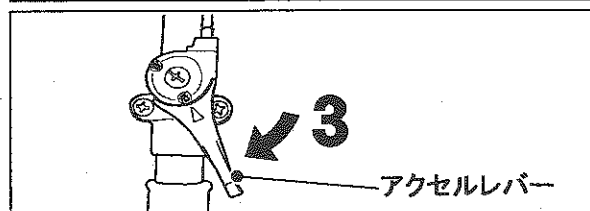
- 2 主クラッチレバーとロータリクラッチレバーを「切」にしてください。

補足

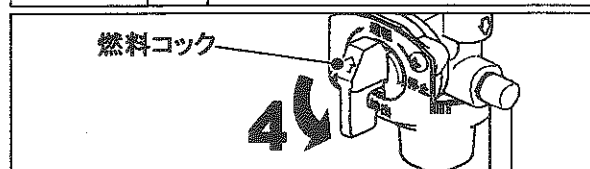
- 主クラッチレバーが「切」の範囲に入る時にカチッと音がしますが、始動安全装置のスイッチが働いてエンジンが始動できる状態になる為で、異常ではありません。



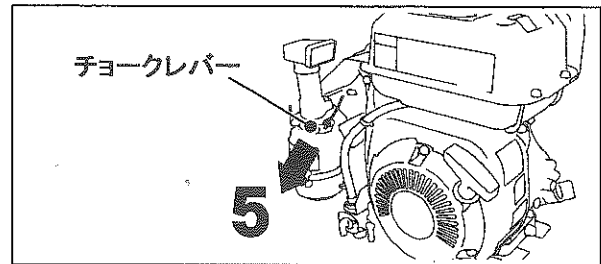
- 3 アクセルレバーを1/3くらい「高」側に回してください。



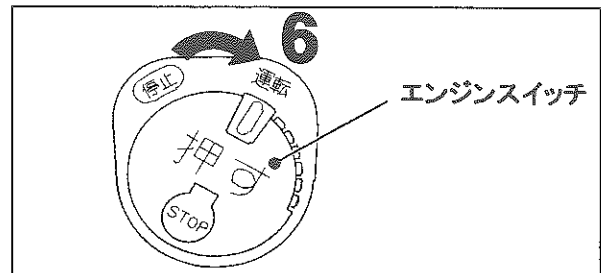
- 4 燃料コックを「運転」位置にしてください。



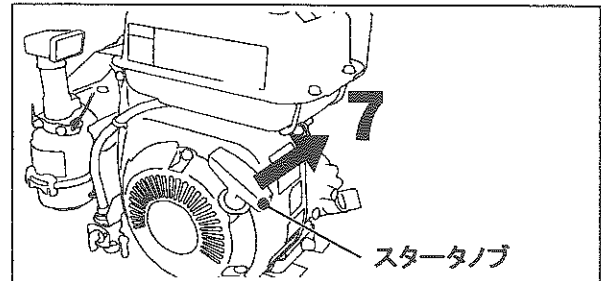
5 チョークレバーを引いてください。



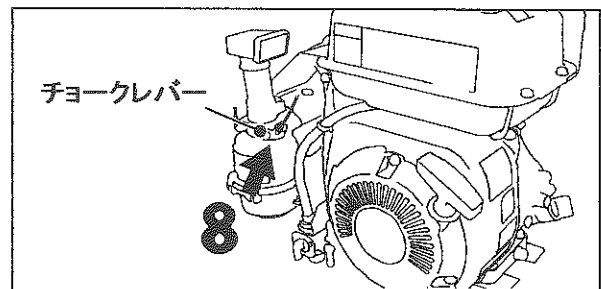
6 エンジンスイッチを「運転」位置にしてください。



7 スタータノブを引っ張ってください。



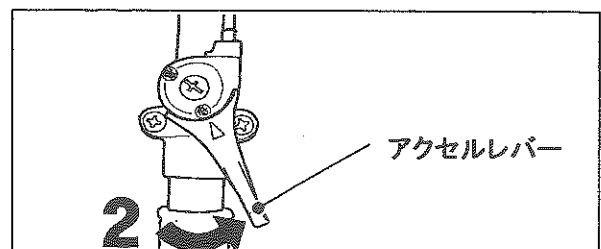
8 エンジンが始動したら、エンジン回転の調子を見ながら、チョークレバーを徐々に戻して行き、最後は完全に戻してください。



5.1.2 停止のしかた

1 主クラッチレバーを「切」の位置にしてください。

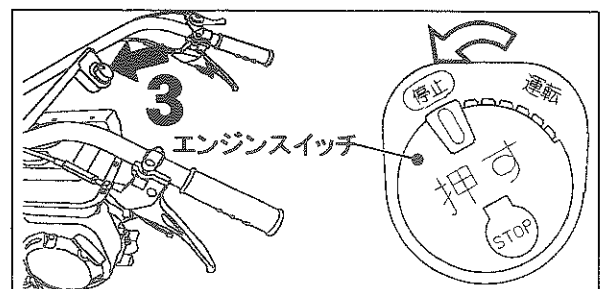
2 アクセルレバーを最も「低」側に回してください。



3 エンジンスイッチを押して「停止」位置にすると、エンジンが停止します。

補足

- 長時間使用しない場合は、燃料コックを「停止」位置にしておいてください。
- 長期間 (30日以上) 使わない場合は、燃料タンク内とキャブレタ内の燃料を抜いて (P. 33 ページ) ください。



5.2 発進と運転のしかた

5.2.1 発進と変速のしかた

警告



管理機を発進させるときは、左右前後の安全を確認し、管理機の近辺に人を近づけないでください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

移動するときは、ロータリクラッチレバーを「入」にしないでください。

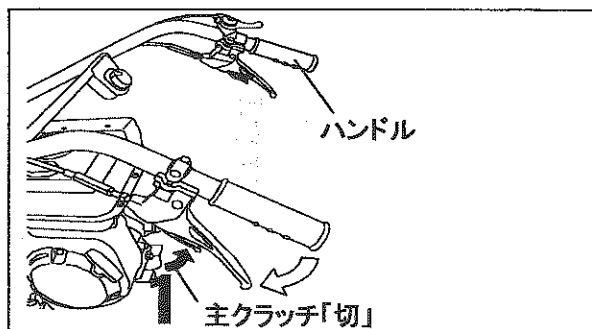
※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



発進するときは、エンジン回転を低回転にして、徐々にクラッチレバーを握り、ゆっくりと発進してください。

※ 急発進すると、衝突・転落事故を引き起こすおそれがあります。

- 1 主クラッチレバーを「切」にしてください。

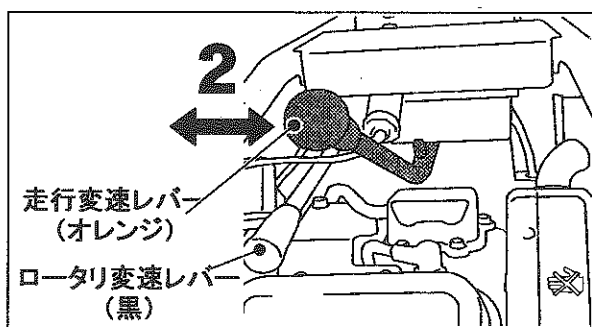


- 2 走行変速レバーまたはロータリ変速レバーを操作して、希望する位置に確実に移動させます。

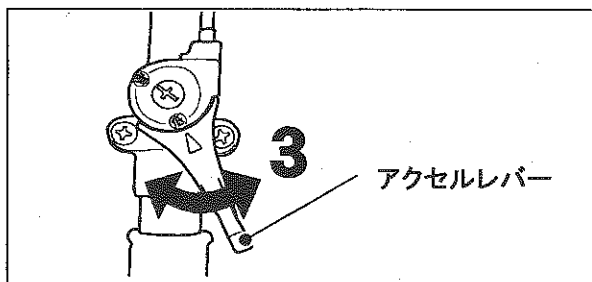
補足

- 変速レバーは、「カチッ」とする位置まで確実に操作してください。

不確実だと、チェンジ抜けやギヤーの破損など、不具合発生の原因になります。

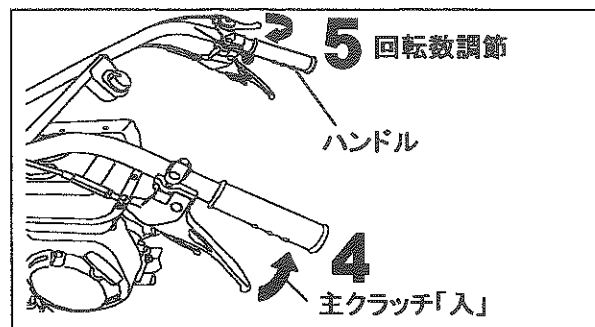


- 3 アクセルレバーでエンジンの回転を中くらいに調整してください。



4 ハンドルをしっかりと握ります。
徐々に主クラッチレバーを握って、クラッチを「入」にして発進してください。

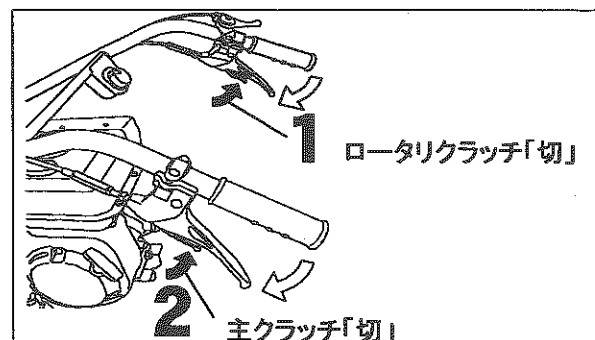
5 様子をみながら、アクセルレバーで徐々にエンジンの回転数を調節してください。



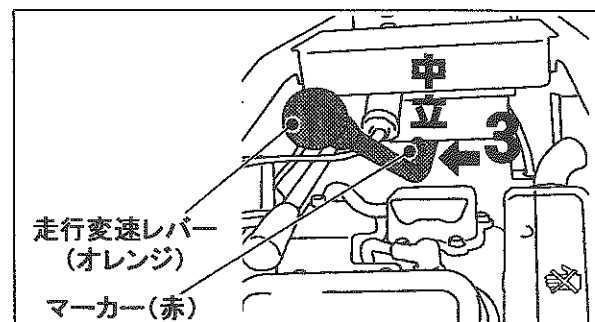
5.2.2 停止のしかた

1 ロータリクラッチレバーを「切」にしてください。

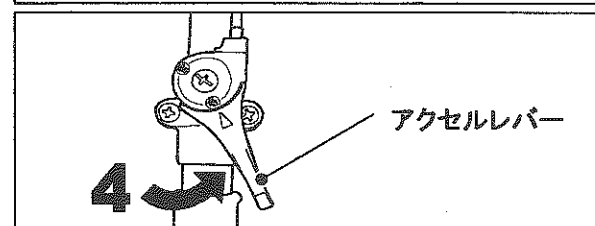
2 主クラッチレバーを「切」にしてください。



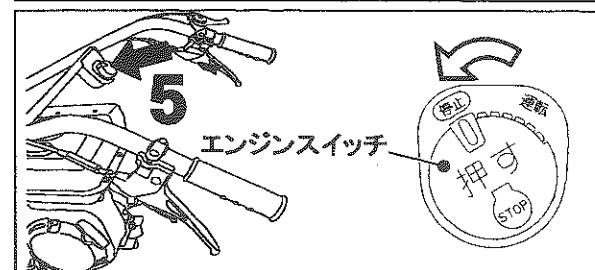
3 走行変速レバーを「中立」にしてください。



4 アクセルレバーを最も「低」側に回してください。



5 エンジンスイッチを押してエンジンを停止してください。



6. 作業のしかた

⚠ 警告



調節をするときは、必ずエンジンを停止してから、行ってください。

※ 守らないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

調節をするときは、機械のバランスに注意しながら行ってください。

※ 守らないと、バランスが不安定になり、転倒による傷害事故を引き起こすおそれがあります。

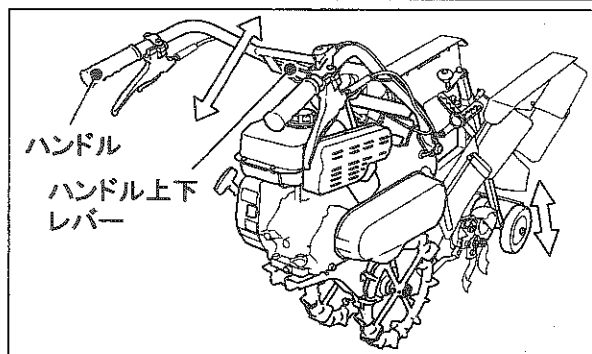
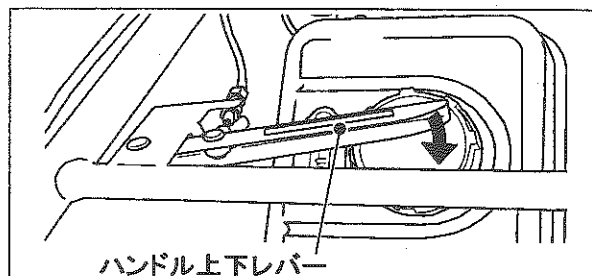
6.1 作業に適した調節のしかた

6.1.1 ハンドル調節のしかた

体格や作業状態に合わせてハンドル高さを調節してください。

ハンドルは、ハンドル上下レバーを握ることにより、上下5段の調節ができます。

ハンドルを高い位置で固定すると、ロータリを持ち上げて旋回するときに楽な姿勢で運転できます。

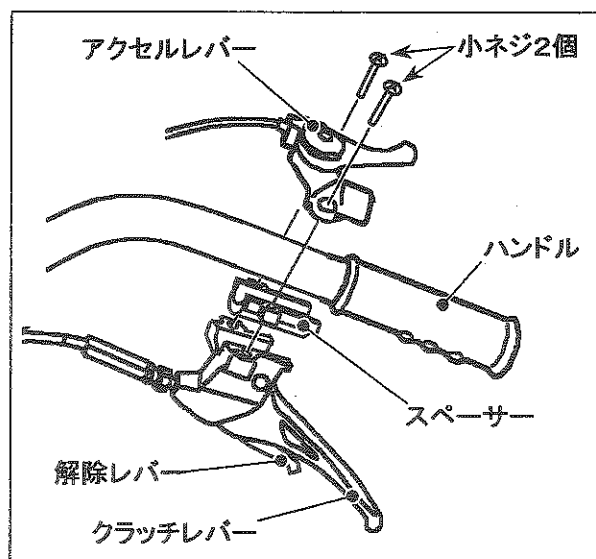


6.1.2 クラッチレバーの握り調節のしかた

クラッチレバーを「入」でロックしている状態でも、ハンドルを楽にしっかりと握れるように、ハンドルとレバーの間に隙間を作っています。

ロックの解除レバーに指が届かないなど、隙間を無くしたいときには、小ネジを2個はずしてスペーサーを取り除くことで、レバーをハンドルに近付けることができます。

はずした小ネジで、クラッチレバーを元の位置にしっかりと締付けてください。



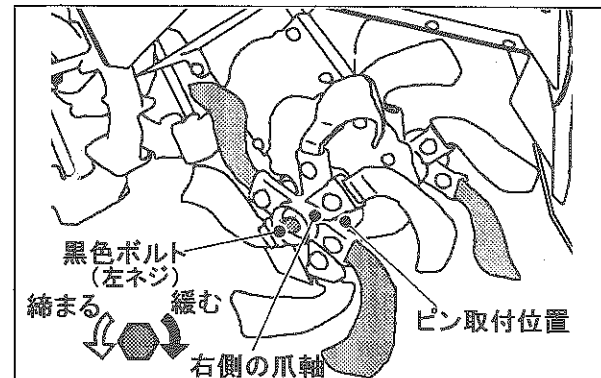
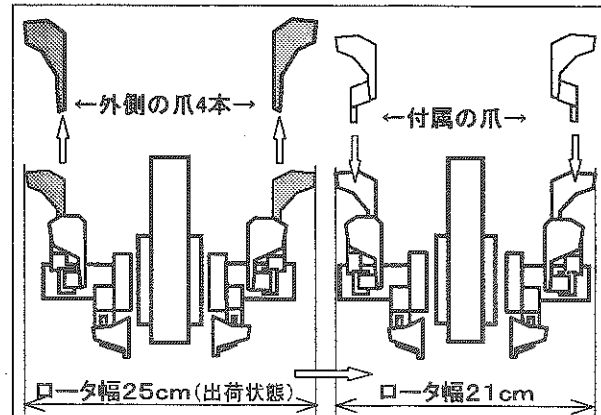
6.1.3 ロータ幅の調節のしかた (B型)

うね間に合せてロータ幅を調節してください。

出荷状態は、ロータ幅25cmにしています。
外側の4本の爪を付属の爪に組替えることにより、ロータ幅を21cmにすることができます。

補足

- 爪軸ははずさず爪だけを交換してください。
- 作業によって爪軸を交換する場合や、爪軸をはずして爪の組替えをする場合には、回転中心のボルトを緩めてはずし、ヘアピンとピンを抜くと爪軸をはずせます。
- 右側の爪軸の中心の黒色ボルトだけは、その他のボルトと回す方向が逆になります。
時計回りに回す・・・緩む
反時計回りに回す・・・締まる
締まっているボルトをさらに締付けると破損するおそれがあります。(全型式)



6.1.4 車輪幅の調節のしかた

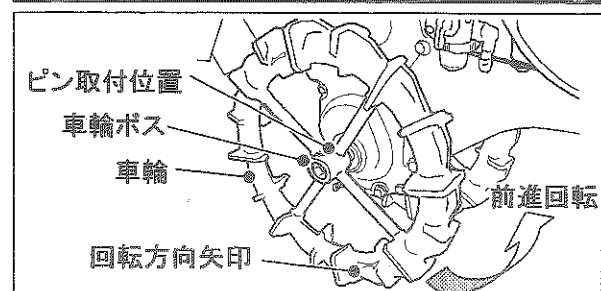
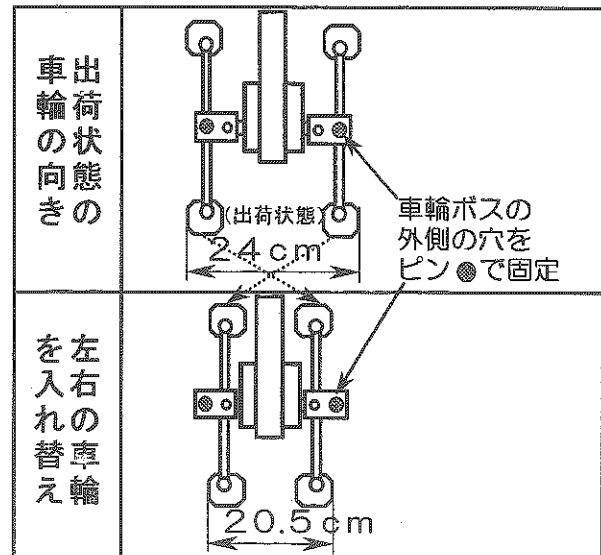
ロータ幅に合わせて車輪幅を調節してください。

出荷状態はロータ幅25cmにあわせて、車輪の外幅を24cmにしています。

ロータ幅を21cmにした場合は、車輪のヘアピンとピンをはずし、左右の車輪を入れ替えてから、外側の穴をピンで固定すると、車輪の外幅を20.5cmにすることができます。

補足

- 左右の車輪を入れ替えるときには、車輪をはずした側の車輪軸を、同じ高さの倒れない台でしっかり受けて安全に注意してください。
- 車輪を組付けるときは、車輪の矢印を、車輪が前進で回転する方向に合せてください。



6.2 土揚げ作業のしかた



警告



開閉ロータリカバーを大きく開いて（上げて）作業をするときは、前方および左右方向に人（特に子供）がいないことを確認してから行ってください。

※ 土や石などがカバーから外に飛び出して、傷害事故を引き起こすことがあります。

土が硬い所では、耕深調節を浅くしてロータリをゆっくり下げてください。

※ 回転する爪の勢いで自分の方に飛び込んで来て、傷害事故を起こす原因になります。

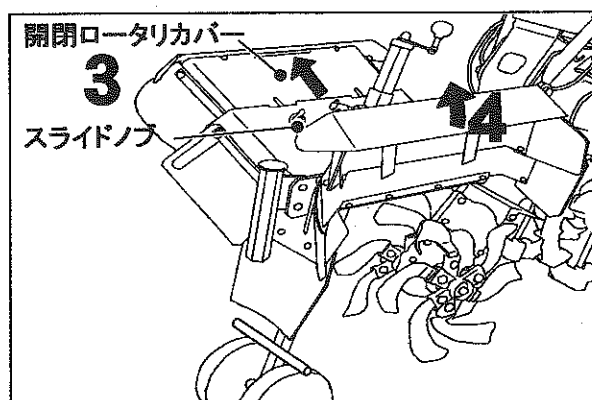
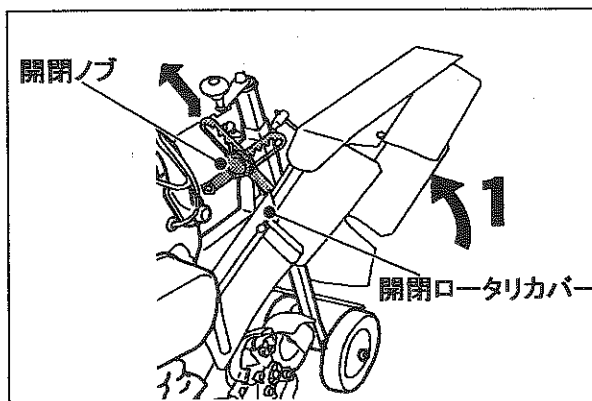
6.2.1 ロータリカバーの調節のしかた

- 1 開閉ノブを緩めます。緩んだ板を少し持ち上げながら、ロータリカバーを持ち上げて、うねの傾斜に合わせます。
- 2 左右のロータリカバーを板の凹みに引掛けて、開閉ノブを締付けます。
- 3 うねが高くなったら、スライドノブを2箇所緩めカバーを引伸ばし適所で締付けます。

補足

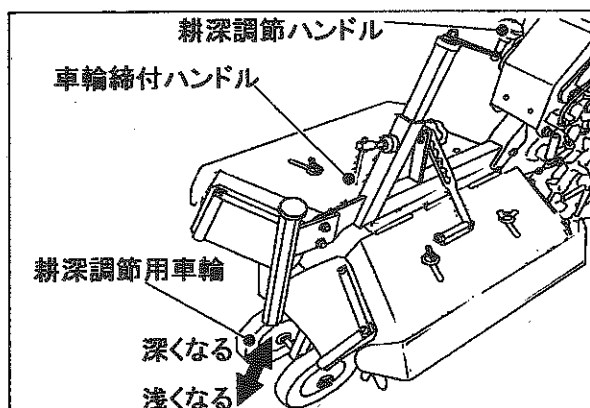
- 開閉ノブもスライドノブも締め過ぎるとネジがはずれてカバーが落ちます。スライドができる最小限だけ緩めてください。

- 4 ロータリカバーの横のカバーの角度を調節し、土を落とす方向に向けてください。



6.2.2 耕深調節のしかた

- 1 1行程目の耕深は、車輪締付ハンドルで深めに調節します。
エンジンが苦しそうな場合や、機体が自分の方へ飛び込んでくる場合は、浅くします。
- 2 2行程目以降は、1行程目より浅くします。
様子を見ながら、耕深調節ハンドルで深くします。



7. 点検整備

次ページの一覧表に従い、定期的に点検整備を行ってください。

⚠ 警告



給油および点検整備をするときには、(1) 管理機を平たんな広い場所に置き、(2) エンジンを停止し、(3) エンジンが十分冷えてから、安全を確認して行ってください。

※ 安全を確認せずに点検整備すると、傷害事故を引き起こすことがあります。

取り外したカバー類は、必ず元どおり取り付けてください。

※ 守らないと、機械に巻き込まれたりして、傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■新車初期点検

作業時間が20時間になるか、最初のシーズンを終了したときは、必ず新車時の初期点検整備を実施してください。

新車時の初期点検整備は、管理機の耐久性にとって大事な項目ですので、「お買いあげ先」での点検、整備をおすすめします。

補足

- 点検整備項目の中には、消耗品の扱いとなっている部品も含まれています。交換が必要な部品は「**キセキ純正部品**」を注文してください。
- 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、「お買いあげ先」へ問い合わせください。
- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または、「お買いあげ先」へ依頼して処理してください。
廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

7.1 毎日の手入れ

- (1) 機体に付いた土、草、ワラ等を落としてください。
- (2) エアクリーナの吸気口から水が入らないように注意して水洗いをしてください。
- (3) エアクリーナのエレメントに付いた土やほこりを落としてください。

7.2 長期間使用しない場合の手入れ

- (1) エンジンは、スタータノブを引き、重さを感じる位置で止めてください。
- (2) 燃料タンクとキャブレタ内の燃料を抜いてください。(P. 33ページ)

7.3 定期点検・点検個所一覧表

○：点検、補充、調整 ●：交換 △：清掃、洗浄 ★：「お買い上げ先」での交換・点検をおすすめします。

点検項目			点検時間	作業時間							備考	参照ページ	
				作業前	新車初期点検★	50時間	100時間★	150時間	200時間★	1回／1ヶ月			1回／1年★
エンジン	エンジンオイル	交換	○	●	●	●	●	●				50時間ごと	32
	エアクリーナ	清掃	○	△	△	△	△	△				25時間ごと	33
	燃 料	点検	○										21
	燃料フィルタ	清掃		△	△	△	△	△				50時間ごと	33
	燃料タンク内部	清掃								★		1 回 / 1 年	21
	点火プラグ	清掃				△		△				100時間ごと	34
	冷却風通路	清掃	△										—
	リコイルスタータ	清掃	△										14
	各部ボルト・ナットのゆるみ	点検	○	○	○	○	○	○					—
本体	各部の損傷・漏れ	点検	○										—
	各レバー類の作動	点検	○										—
	各部ボルト・ナットのゆるみ	点検	○										—
	各ピン類の確認	点検	○										—
	ベルトの付き回り	点検	○	○	○	○	○	○					20
	ミッションオイル	交換	○		●		●					初回50時間 以後100時間ごと	32
	油漏れの確認	点検	○										—
	燃料ホース	点検	○								★	1 回 / 2 年	—
	各ケーブル類	点検	○	○	○	○	○	○			★	1 回 / 2 年	41
	電気配線	点検	○							★	1 回 / 2 年	—	

⚠ 注意



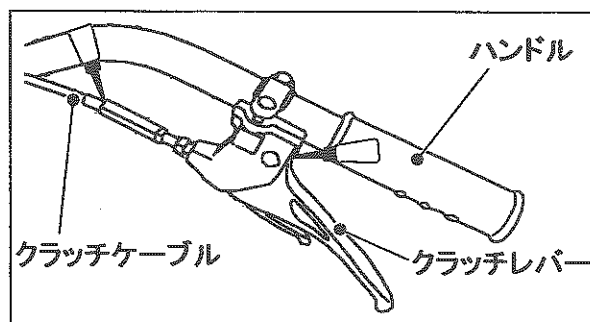
土揚げ作業後は各部に土埃が付いているので、よく拭き取ってから点検してください。
※ 注油に土埃が混じると、摩耗を起こして不調の原因となります。

7.4 各部の注油

定期的に油差しで注油してください。

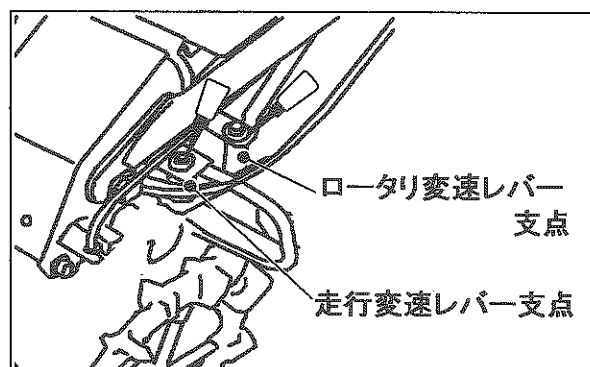
7.4.1 クラッチケーブル、レバー支点

右図の  の箇所を注油してください。




7.4.2 変速レバー支点

右図の  の箇所を注油してください。

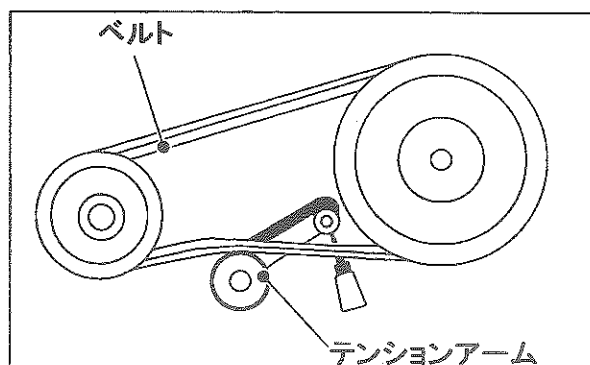


7.4.3 テンションアーム支点

ベルトカバーの裏側、右図の  の箇所にグリース注油口があります。タイヤの隙間からかもししくはベルトカバーをはずして、グリースガンを使ってグリースを注油口に注入してください。

補足

- ベルトには油をつけないでください。



7. 点検整備

7.5 各部オイルの点検・交換

補足

- 抜き取った廃油等の油脂類は、専門の処理業者、または「お買いあげ先」へ依頼してください。廃油等を捨てたり放置すると、法令違反となり処罰されます。

7.5.1 エンジンオイル

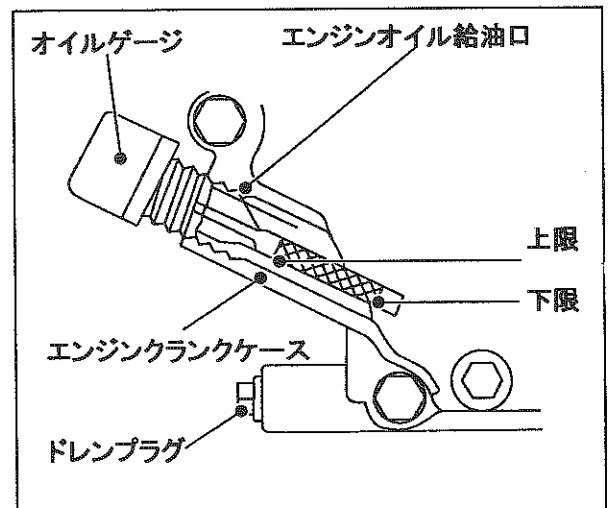
■点検

各部の給油と検油の項をお読みください。
(P 20 ページ)

■交換

- 1 ドレンプラグを外してオイルを排出します。
- 2 排出し終わったらドレンプラグを確実に締め付け、給油口からエンジンオイルを入れてください。

エンジンオイル容量	0.6 L
-----------	-------



補足

- 給油量は交換の際の目安です。交換後は必ず検油してください。(P 20 ページ)
- エンジンオイルは必ず純正オイルを使用してください。(P 39 ページ)

7.5.2 ミッションオイル

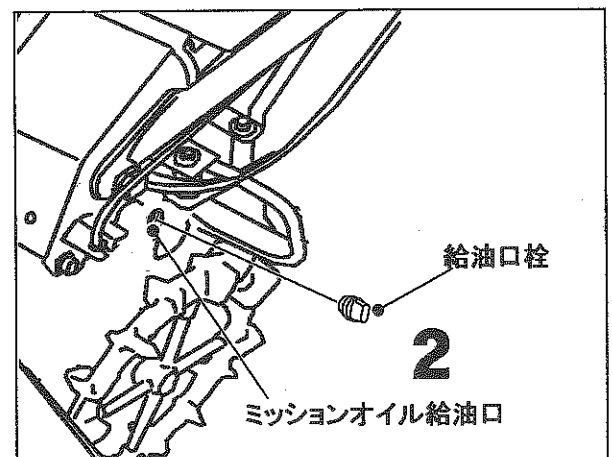
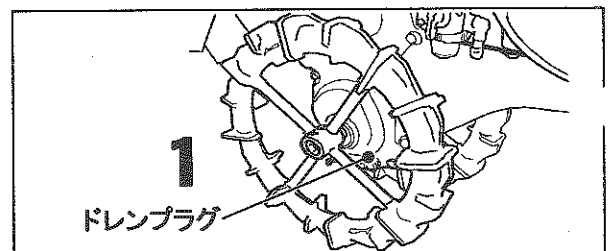
■点検

各部の給油と検油の項をお読みください。
(P 21 ページ)

■交換

- 1 燃料コックを「停止」にしてエンジン側を下げて地面に着けます。
ドレンプラグを外してオイルを排出します。
- 2 排出し終わったらドレンプラグを確実に締め付け、エンジンを水平に戻し、給油口からミッションオイルを入れてください。

ミッションオイル容量	約 5.2 L
------------	---------



補足

- 給油量は交換の際の目安です。交換後は必ず検油してください。(P 21 ページ)
- ミッションオイルは必ず純正オイルを使用してください。(P 39 ページ)

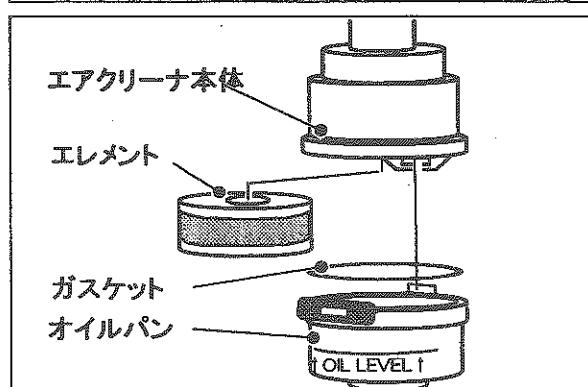
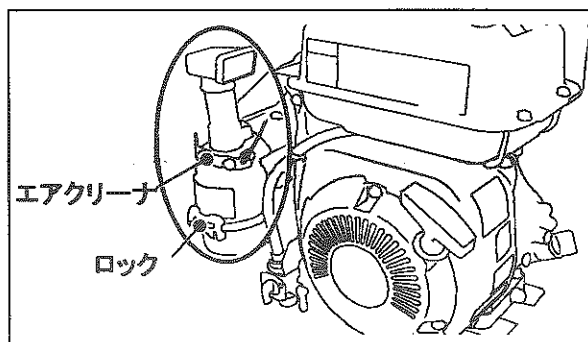
7.6 エアクリーナの清掃

吸入空気はオイルパン内のオイルによってきれいになります。オイルが汚れたまま使用しますと、エンジン内部の損傷、あるいは出力低下をまねきます。

- 1 エアクリーナのロックの上部を引いて中のオイルがこぼれないようにオイルパンをはずしてください。
- 2 オイルが汚れていないか確認し、汚れていれば、エアクリーナ本体の下から中のエレメントも引き出してはってください。
- 3 オイルパンとエレメントを洗浄油で洗ってください。

補足

- 洗浄するとき、ガソリンは絶対使用しないでください。
- 4 エンジンオイルを、オイルパンのオイルレベルの線まで入れてください。
- 5 エアクリーナ本体内部の清掃が終わったら、元どおりに取り付けてください。



7.7 燃料の抜きかた

⚠ 注意



長期保管する場合は、必ず燃料を抜いてください。

※ 守らないと、燃料が変質し、次の使用が困難になる場合があります。

7.7.1 燃料の抜きかた

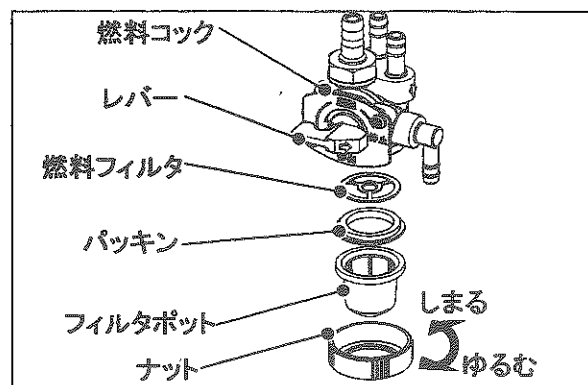
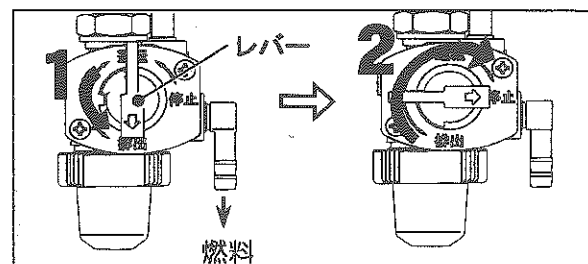
- 1 受け皿を用意して、レバーを「排出」に向けます。
- 2 燃料タンク内とキャブレタ内の燃料が抜きたらレバーを「停止」にします。

補足

- 燃料タンク内に残っている燃料も全て出てきますので、大きめの容器で受けてください。

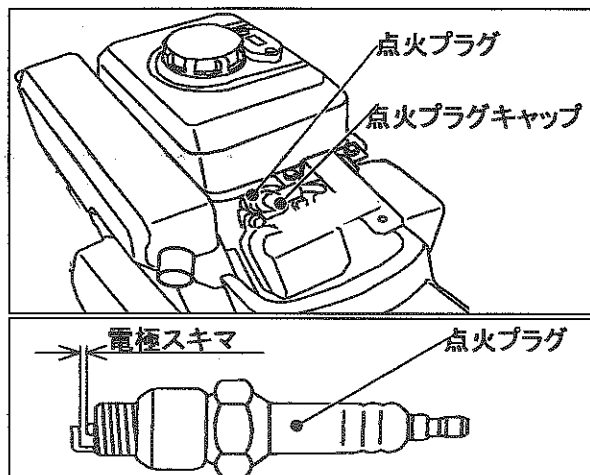
7.7.2 燃料フィルタの清掃

- 1 レバーを「停止」にします。
- 2 ナットを緩めて、フィルタポットを外します。
- 3 フィルタポットを、燃料フィルタと一緒に洗浄します。
- 4 燃料フィルタおよびフィルタポットを、元どおり取り付けます。



7.8 点火プラグの整備

- 1 キャップを外し、付属のプラグレンチとレンチ用バーを使ってプラグを取り外します。
- 2 点火プラグに付着しているススや湿りを取り除きます。
- 3 点火プラグの電極スキマを0.6～0.7mmに調整します。
- 4 点火プラグを手で仮付けしてから、プラグレンチとレンチ用バーを使って確実に取り付けます。
- 5 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取り付けます。



7.9 残耕処理刃の交換

警告



残耕処理刃は鋭く尖っています。点検時や交換時には十分注意をしてください。

※ ロータリの下での作業をしているときにロータリが下がってくると、重大な傷害事故につながるおそれがあります。

残耕処理刃はひっかかり易いので、移動させるときは常に注意をしてください。

※ 守らないと、事故や破損の原因になります。

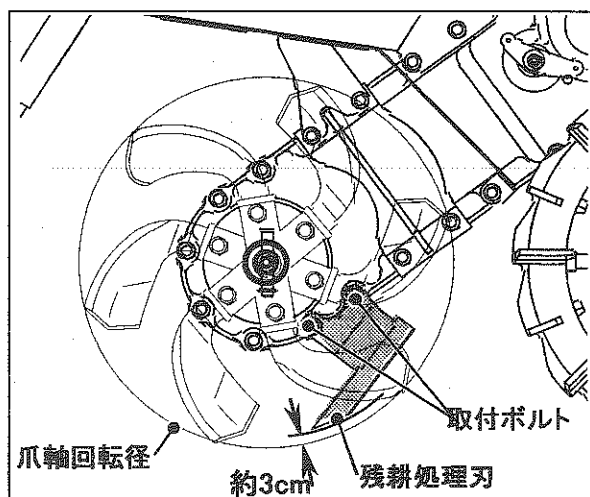
残耕処理刃は、爪と同様に消耗する部品です。残耕処理刃が、爪軸の回転径に比べ、約3cm引込んだ形に磨耗していたら交換時期です。

交換

- 1 取付ボルトを外して、残耕処理刃を外します。
- 2 新しい残耕処理刃を、同じ位置に同じ向きで取り付けてください。

補足

- 新しい残耕処理刃の取り付け位置や向きを誤ると、残耕部分の処理ができなかったり、振動して進まないなどの問題が起こるので、よく確認してから取り付けてください。

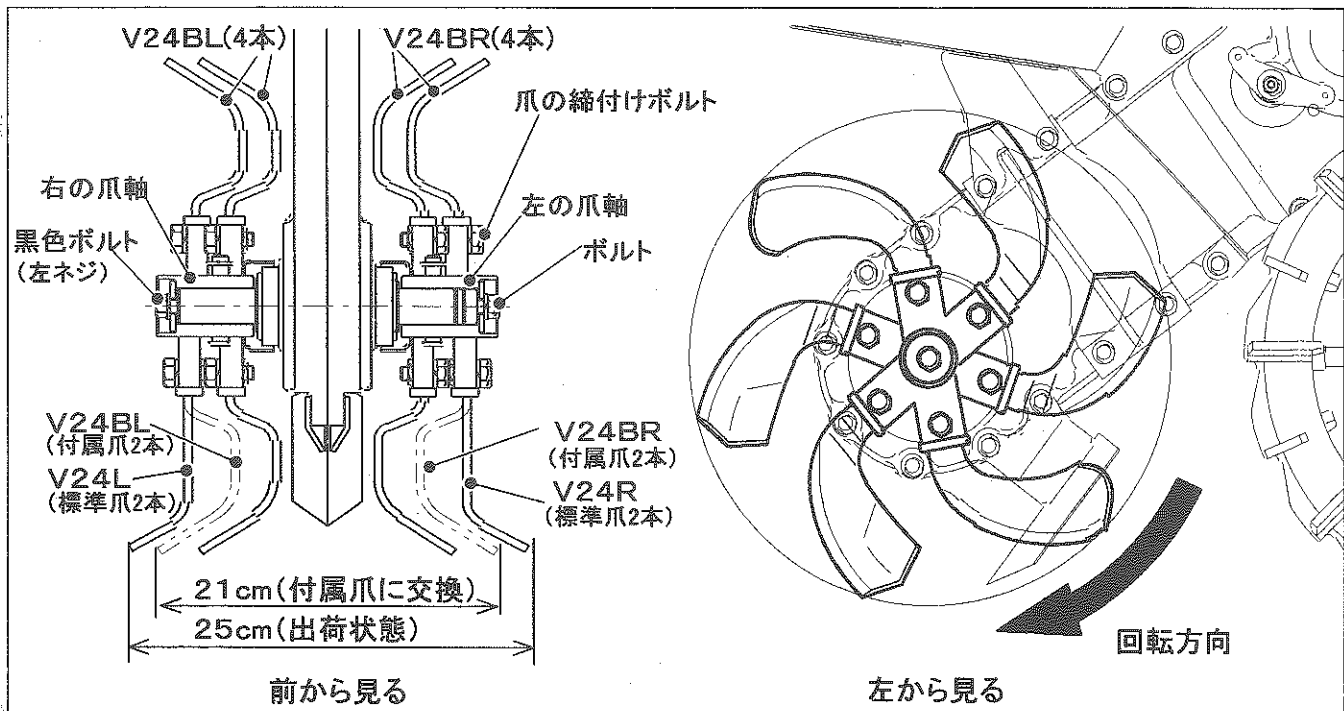


7.10 爪の取り付けかた（B型）

爪は向きを間違えないように、下図のように組んでください。

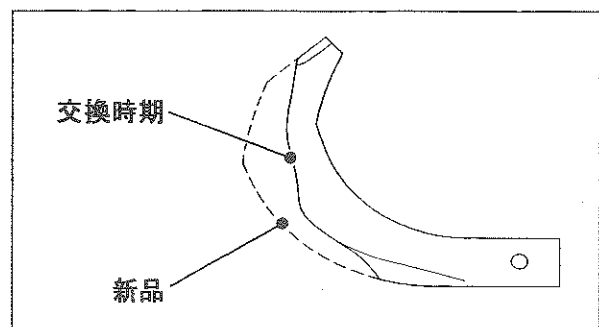
いちばん外側の左右4本をV24爪、残り全てをV24B爪で組立てると、ロータ幅は25cmとなります。（出荷状態）

出荷状態から、外側左右4本を標準付属品にある爪に交換する（全てをV24B爪で組立てる）と、ロータ幅は21cmに狭くできます。



補足

- 爪の摩耗量が約半分を超えたら交換時期です。効率の良い作業をしていただく為に早めにお取り換えください。
- 爪軸をはずさずに爪だけを交換してください。
- 爪の交換は純正のナタバ（P 41ページ）を使用してください。
- 爪軸をはずすときは、ボルトを回す方向に注意してください。（P 27ページ）



8. 格納時の手入れ

注意



洗車をするときは、電装品、給油口、安全表示ラベル貼付箇所には圧力水をかけないでください。

※ 圧力水をかけると、故障の原因となったり、安全表示ラベルのはがれを起こしたりします。

8.1 日常の格納

日常の格納および短期間の格納をする前に、下記の作業を行ってください。

- (1) 使用後はきれいに清掃をしてください。
- (2) 燃料コックは「停止」位置にし、機体を水平にしてください。
- (3) 格納はできる限り屋内にしてください。

8.2 長期の格納

管理機を長い期間使用しない場合は、格納する前に、下記の作業を行ってください。

- (1) 管理機はきれいに清掃をしてください。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、エンジン各部にオイルをゆきわたらせてください。
- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 各部のボルト、ナットのゆるみを点検し、ゆるんでいれば締めてください。
- (6) 格納場所は、周囲にワラなど燃えやすいものがなく、雨のかからない乾燥した場所を選定し、シートをかけるようにしてください。
- (7) エンジンのスタータノブをゆっくり引いて、重さを感じる位置でノブを戻してください。
- (8) 燃料をタンクおよびキャブレタから抜いてください。（P 33ページ）

8.3 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- (1) 作業前点検を確実に行ってください。
- (2) エンジンの寿命、性能を保つため、エンジンの始動後は、アイドリング回転で5分ほど運転してください。

9. 不調時の処置

9.1 不調時の処置

現象	原因	処置	参照ページ
エンジンがかからない。	● エンジンスイッチが「停止」になっていませんか。	エンジンスイッチを「運転」にしてください。	15
	● エンジンの始動手順がまちがっていませんか。	正しい始動手順でエンジンをかけてください。	22
	● 燃料がなくなっていますか。	ガソリンを補給してください。	21
	● 燃料コックが「停止」になっていませんか。	燃料コックを「運転」にしてください。	15
	● 燃料に水が入っていますか。	燃料フィルタに水がたまっていれば、キャブレタやフィルタを外して水を抜いてください。	33
	● 点火プラグが悪くなっていますか。	点火プラグを外し、乾いた布で拭くか、火であぶってよく乾燥させて汚れを落とし、点火プラグの電極スキマを0.6~0.7mmに調整してください。 それでもかからない場合は、新しい点火プラグと交換してください。	34 40
	● 主クラッチを入にする途中カチッと音がしますか	しない場合は、「お買いあげ先」で調整してください。	—
エンジンの力がない。	● エアクリーナにゴミがたまっていますか。	エレメントを取り外しきれいに掃除するか新しいエレメントと交換してください	33
	● エンジンオイルが減っていますか。	エンジンオイルを補給してください。 エンジンオイルが汚れている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください	20 32
	● ベルトが張りすぎていませんか。	ベルトの張りを調節する必要があるので、「お買いあげ先」で調節してください。	—
	● エンジンの回転は上がりますか。	アクセルケーブルの取り付け位置が動いていたら、元の位置に確実に固定してください。	—
	● エンジンの圧縮はありますか。	点火プラグ及びシリンダヘッドボルトを締め付けてください。 ピストンリングなどの磨耗も考えられますので、「お買いあげ先」で修理してください。	34 —

9. 不調時の処置

現 象	原 因	処 置	参照ページ
エンジンが自然にとまる。	● エンジンスイッチが「停止」になっていませんか。	エンジンスイッチを「運転」にしてください。	15
	● 燃料がなくなっていないですか。	ガソリンを補給してください。	21
	● 燃料コックが「停止」になっていませんか。	燃料コックを「運転」に向けてください。	15
	● エアクリーナにゴミがつまっていますか。	エレメントを取り外し、きれいに掃除するか、新しいエレメントと交換してください。	33
	● エンジンオイルが減っていませんか。	エンジンオイルを補給してください。 エンジンオイルが古くなっている場合は、新しいエンジンオイルと交換してください。	20 32
	● スタータノブを引いたときエンジンはまわりますか。	回らなかったり重い場合には、「お買いあげ先」で修理してください。	—
	● ロータ爪に草やワラが巻き付いたり、カバーに土がつまっていますか。	草やワラや土を取り除いてください。	—
	● 燃料キャップの空気穴が埃で詰まっていますか。	詰まりを取り除いてください。	—
振動が多い。	● エンジンが揺れていませんか。	エンジン取り付けボルトを締め直してください。	—
	● ハンドルが揺れていませんか。	強く揺れているときは、「お買いあげ先」で修理してください。	—
クラッチレバーを「入」にしても発進しない。	● ベルトが伸びてスリップしていませんか。	ベルトの張りを調節する必要があるので、「お買いあげ先」で調節してください。	—

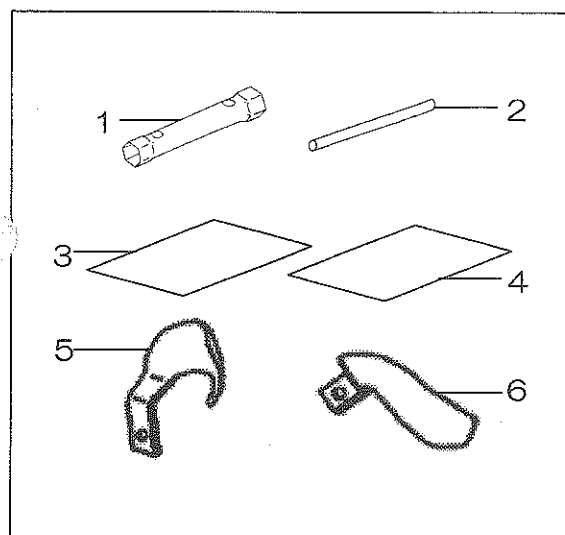
※不調時はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ先にご相談ください。

10. 付表

10.1 推奨潤滑油一覧表

区 分	メーカ名	商 品 名 ・ 規 格	納車時充填油
ガソリン エンジンオイル	井関農機 有名メーカのSF級以上	井セキ・ディーゼルDXオイル (ガソリン車・ディーゼル車兼用) 〔20L缶:7019-005-300-00〕 〔4L缶:7019-005-400-00〕 SAE10W-30または粘度番号#30 (冬期は#20)	○
ギヤーオイル	井関農機 他有名メーカ	井セキ・ハイポイドギヤーオイル(#80) 〔20L缶:7019-001-300-00〕 〔4L缶:7019-001-400-00〕 #80相当品	○
一般グリース	協同油脂 有名メーカ	ユニルフ No.2 リチューム系一般グリース	○
燃 料	有名メーカ	自動車用無鉛ガソリン	○

10.2 標準付属品



番 号	品 名	個数	備 考
1	プラグレンチ (14×21)	1	
2	プラグレンチ用バー	1	
3	取扱説明書	1	
4	保証書	1	
5	ナタバ (V24B/LH)	2	ロータ幅21cm にする時使用
6	ナタバ (V24B/RH)	2	

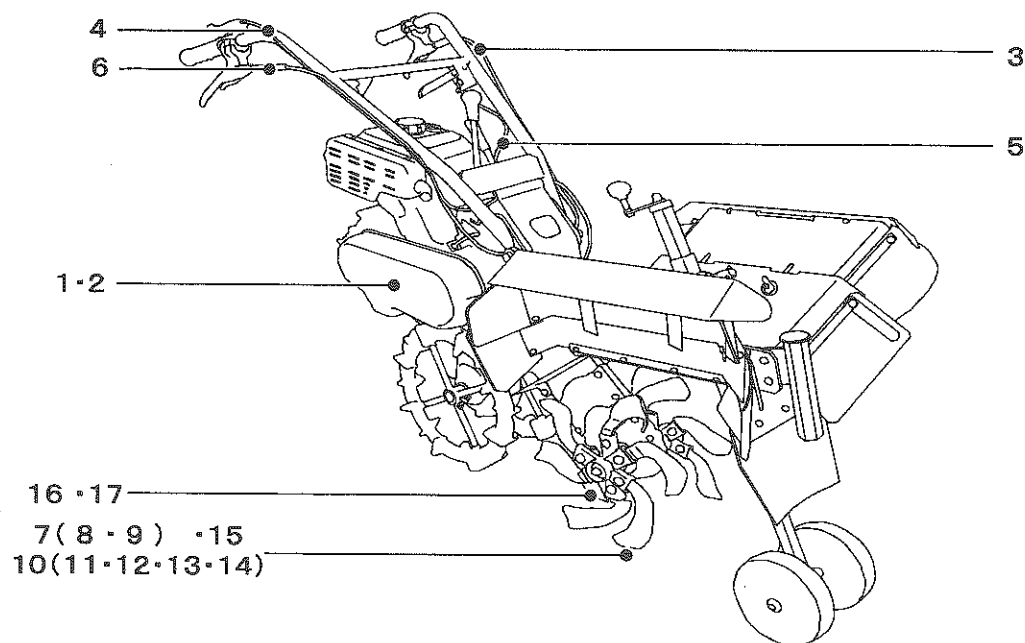
※5・6はBの付く型式に付属

10.3 主要諸元表

名 称		KNR6			
区 分		B	N	BL	NL
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1480			
	全 幅 (mm)	650			
	全 高 (mm)	970			
機 体 質 量 (乾 燥) (kg)		79	74	79	74
エ ン ジ ン	型 式 名	FE170G			
	種 類	空冷4サイクル1気筒OHVガソリン			
	総 排 気 量 (L)	0.171			
	出力／回転速度 (kW { PS } ／rpm)	定格3.1 { 4.2 } ／1800 (最大4.6 { 6.2 } ／2000)			
	使 用 燃 料	自動車用無鉛ガソリン			
	燃 料 タ ン ク 容 量 (L)	3.4			
	始 動 方 式	リコイルスタータ式			
	エ ア ク リ ー ナ	オイルバス			
	点 火 プ ラ グ	NGK-BP5ES			
走 行 部	車 輪 (タイヤ)	φ350×60			
	輪 距 (mm)	145・180			
	主クラッチ形式	ベルトテンション			
	走 行 変 速 段 数 (段)	前進3・後進1			
	走 行 速 度 (km/h) (エンジン定格回転速度時)	前進1.1～3.4 後進1.0		前進0.9～2.9 後進0.8	
	車軸の形状・寸法 (mm)	六角対辺23・長さ40			
	ハ ン ド ル 調 節	上下5段 (手元ワンタッチ)			
ロ ー タ リ	駆 動 方 式	センタドライブ			
	変 速 段 数 (段)	逆転2			
	ロ ー タ 幅 (mm)	210・250	—	210・250	—
	ロータリクラッチ形式	爪クラッチ			
	爪 軸 回 転 数 (rpm) (エンジン定格回転速度時)	高速：515 低速：370			

※ この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

10.4 主な消耗部品一覧表



※絵は、KNR6-B型を示す

番号	品名	品番	個数	適用区分
1	ベルト (VB029)	1125-201-003-00	2	B・N型
2	ベルト (VB030)	1129-201-001-00	2	BL・NL型
3	ケーブル (クラッチ)	1141-401-001-00	1	
4	ケーブル (アクセル) ASSY	1129-402-210-00	1	
5	ケーブル (シフト/ハンドル)	1141-404-001-00	1	
6	ケーブル (クラッチ/ロータリ)	1141-411-001-00	1	
7	ナタバ (B/21) SET	1141-718-220-00	1	□-タ幅21cm用交換セット
8	ナタバ (V24B/LH)	1141-718-211-00	6	} ナタバ (B/21) SETの内訳
9	ナタバ (V24B/RH)	1141-718-212-00	6	
10	ナタバ (B/25) SET	1141-718-230-00	1	□-タ幅25cm用交換セット
11	ナタバ (V24B/LH)	1141-718-211-00	4	} ナタバ (B/25) SETの内訳
12	ナタバ (V24B/RH)	1141-718-212-00	4	
13	ナタバ (V24/LH)	1138-720-263-00	2	
14	ナタバ (V24/RH)	1138-720-264-00	2	
15	ボルト (M10×23) SET	1105-718-220-00	12	爪を締付けるボルトセット
16	レジスタ COMP	1141-216-200-10	1	残耕処理刃、B・BL型
17	レジスタ (N) COMP	1141-216-210-00	1	残耕処理刃、N・NL型

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

**取扱い方法、手入れの仕方、故障修理などお困りのときは、
お買いあげ先へご相談ください。**

●ここにメモされておくと後々便利とおもいますので、ぜひ記入しておいてください。

購入先名	担当者名	電話 () —
御購入日 平成 年 月 日	型式	区分
車体番号（本機番号）	機関番号	同時購入作業機

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部 技術ソリューションセンター	〒300-2346	茨城県つくばみらい市青木560	☎ 0297-58-5131
部品事業部	〒799-2692	愛媛県松山市馬木町700	☎ 089-979-4114

販売会社

(株) 中セキ北海道	〒068-0014	北海道岩見沢市東町2条7丁目1004番地1	☎ 0126-22-3388
(株) 中セキ東北	〒989-2421	宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2	☎ 0223-24-1111
(株) 中セキ関東	〒300-0331	茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4818	☎ 0298-87-6131
群馬中セキ販売(株)	〒379-2154	群馬県前橋市天川大島町116	☎ 0272-63-3211
(株) 石川商会	〒289-2516	千葉県旭市口-1247	☎ 0479-63-3115
柳田中セキ販売(株)	〒243-0806	神奈川県厚木市下依知250-2	☎ 046-244-2723
(株) 中セキ信越	〒950-1237	新潟県新潟市南区北田中字堀留780-12	☎ 025-362-1161
(株) 中セキ北陸	〒920-0806	石川県金沢市神宮寺2丁目20-8	☎ 076-252-5246
(株) 中セキ東海	〒444-1221	愛知県安城市和泉町大北61	☎ 0566-92-7221
三重中セキ販売(株)	〒514-0821	三重県津市垂水字中境499番地	☎ 059-225-2811
(株) 中セキ関西	〒675-0103	兵庫県加古川市平岡町高畑348-1	☎ 079-424-5357
奈良中セキ販売(株)	〒635-0014	奈良県大和高田市三和町17-29	☎ 0745-22-8771
(株) 中セキ中国	〒739-0024	広島県東広島市西条町御園宇727-2	☎ 082-423-9881
(株) 中セキ四国	〒799-3101	愛媛県伊予市八倉120-1	☎ 089-983-5677
(株) 西岡商会	〒773-0016	徳島県小松島市中郷町前田105-1	☎ 0885-32-3339
(株) 中セキ九州	〒861-2212	熊本県上益城郡益城町平田深迫2550	☎ 096-286-0303



このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会
の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主
規制に適合していることを示しています。

陸内協排ガス自主規制適合